

教養科目（令和3年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	小池 隆太			
		65000	別掲 教養ゼミ	②	30	1	前期	(別掲)		授業コード別掲	
		60031	キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也		後期開講（2～3月）	
		60040	60041 ライフ・キャリアデザイン (木曜Ⅴ限)	2	30	1・2	前期	後藤 和也			日本史指定・社会情報指定
		60040	60042 " (金曜Ⅴ限)								
		60050	60051 現代社会とキャリア形成 (火曜Ⅴ限)	2	30	1・2	後期	後藤 和也			英語英文・日本史指定
		60050	60052 " (木曜Ⅴ限)								
	主題別科目	60110	60111 心理学 (火曜Ⅱ限)	2	30	1・2	前期	石崎 毅			○ 教職必修 栄養大との合同授業(単位互換による) 栄養大との合同授業(単位互換による) 前期開講（8～9月）
		60110	60112 " (火曜Ⅲ限)								
		60130	日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学			
		60140	国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学			
		60150	現代社会論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央			
		60160	ジェンダー論	2	30	1・2	前期	山田彩起子			
		60190	健康と栄養	1	15	1・2	前期	金谷 由希			
60200	芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典					
情報リテラシー	60210	60211 情報処理演習Ⅰ (水曜Ⅱ限)	2	30	1・2	前期	鈴木 久美			② 英語英文指定 国語国文指定 社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 社会情報・日本史指定 「情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい 「簿記会計演習」又は「応用情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい	
	60210	60212 " (木曜Ⅰ限)									
	60210	60213 " (水曜Ⅲ限)	2	30	1・2	後期	鈴木 久美				
	60210	60214 " (水曜Ⅳ限)									
	60210	60215 " (金曜Ⅰ限)	2	30	1・2	後期	鈴木 久美				
	60220	60221 情報処理演習Ⅱ (水曜Ⅰ限)									
	60220	60223 " (木曜Ⅰ限)	2	30	1・2	後期	西川 友子				
	60220	60224 " (水曜Ⅲ限)									
	60220	60225 " (火曜Ⅰ限)	2	30	1・2	前期	西川 友子				
	60260	応用情報処理演習Ⅰ									
	60270	応用情報処理演習Ⅱ	2	30	1・2	後期	伊豆田義人				
	60280	応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	後期	伊豆田義人				
	共通基礎科目	外国語(英語英文学科以外)	60310	英語一	2	30	1・2	前期	横山 利夫		② 国語国文学科 日本史学科 社会情報学科
60320			英語二	2	30	1・2	後期	北山 長貴			
60330			英語三	2	30	1・2	前期	横山 利夫			
60340			英語四	2	30	1・2	後期	渡邊真由美			
60350			英語五	2	30	1・2	後期	小林 亜希			
60360			英語六	2	30	1・2	前期	阿部 隆夫			
60370			英語七	2	30	1・2	後期	松井 真人			
60380			英語八	2	30	1・2	前期	太田 裕子			
60390			英語九	2	30	1・2	後期	三枝 和彦			
60400			英会話A	2	30	1・2	前期	マニ・タヴ・アコリ	日本史・社会情報指定		
60410			英会話B	2	30	1・2	前期	マニ・タヴ・アコリ			
60420			英会話C	2	30	1・2	後期	マニ・タヴ・アコリ	国語国文指定		
60430			英会話D	2	30	1・2	後期	マニ・タヴ・アコリ			
60451			異文化理解実習	2	60	1・2	集中	英文専任教員		本年度開講せず	
60460		60461 フランス語一 (月曜Ⅲ限)	2	② 30	1・2	前期	寺本 弘子				
60460		60462 " (月曜Ⅳ限)									
60470		60471 フランス語二 (月曜Ⅱ限)	2	30	1・2	後期	寺本 弘子		初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい		
60470		60472 " (月曜Ⅳ限)									
60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子				
60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子				
60500		60501 中国語一 (月曜Ⅲ限)	2	30	1・2	前期	齋藤 知広		英語英文・日本史指定		
60500		60502 " (月曜Ⅳ限)									
60500		60503 " (月曜Ⅱ限)	2	30	1・2	後期	李 通江		国語国文・社会情報指定		
60500		60504 " (月曜Ⅲ限)									
60510		60511 中国語二 (月曜Ⅲ限)	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				
60510		60512 " (月曜Ⅳ限)									
60510	60513 " (月曜Ⅱ限)	2	30	1・2	後期	李 通江					
60510	60514 " (月曜Ⅲ限)										
60520	中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広					
60530	中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広					

教養科目（令和3年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要					
外国語（英語英文学科）	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		〔 英語英文学科 〕					
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）												
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子							
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）												
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子							
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子							
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広							
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）												
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）												
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広							
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）												
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	李 通江							
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）												
	60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広							
60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広								
60451		異文化理解実習	2	60	1・2	集中	英文専任教員	本年度開講せず							
共通基礎科目	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期	比留間浩介	②	個人種目スポーツ					
	60620		スポーツ実技二								個人種目スポーツ				
	60630		スポーツ実技三								団体種目スポーツ				
	60640		スポーツ実技四								団体種目スポーツ				
	60650		スポーツ実技五								レクリエーション・スポーツ				
	60660		スポーツ実技六								レクリエーション・スポーツ				
	60670		スポーツ実技七								フィットネス				
	60680		スポーツ実技八								フィットネス				
	60690		スポーツ実技九								前期開講（8～9月）				
	60700		スポーツ実技十								冬季開講予定				
	60710		健康理論 ※1								1	15	1・2	後期	加藤 守匡
	60720		スポーツ文化論 ※1								2	30	1・2	後期	比留間浩介

(注)・「○数字」は必修単位、「」○数字」は選択必修単位

- ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
- ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
- ・※1「健康理論」及び「スポーツ文化論」は、卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

教養ゼミ 授業コード

学科	科目コード	授業コード	担当教員
国語国文	65000	65011	高橋 永行
	65000	65012	山本 淳
	65000	65013	佐々木紀一
	65000	65014	村瀬 桃子
	65000	65015	岩原 真代
	65000	65016	北口己津子
	65000	65017	後藤 和也
	65000	65018	岡 英里奈
	65000	65019	今井 瞳良
英語英文	65000	65021	北山 長貴
	65000	65022	阿部 隆夫
	65000	65023	松井 真人
	65000	65024	横山 利夫
	65000	65025	渡邊真由美
	65000	65026	畑田 秀将
	65000	65027	小林 亜希

学科	科目コード	授業コード	担当教員
日本史	65000	65031	菌部 寿樹
	65000	65032	小林 文雄
	65000	65033	吉田 歆
	65000	65034	布施 賢治
	65000	65035	原 淳一郎
	65000	65036	山田彩起子
社会情報	65000	65041	石崎 毅
	65000	65042	亀ヶ谷雅彦
	65000	65043	伊豆田義人
	65000	65044	小池 隆太
	65000	65045	鈴木 久美
	65000	65046	西川 友子
	65000	65047	比留間浩介
65000	65048	中川 恵	
65000	65049	高浜 快斗	

※指定学年（1学年）以外の者が「教養ゼミ」の再履修を要する場合は、別途指示する

教養科目（令和2年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要					
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	小池 隆太		後期開講（2～3月）					
			教養ゼミ	②	30	1	前期	—							
			キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也							
		60040	60041	ライフ・キャリアデザイン （木曜Ⅴ限）	2	30	1・2	前期			後藤 和也	日本史・社会情報指定			
		60040	60042	” （金曜Ⅴ限）								国語国文・英語英文指定			
		60050	60051	現代社会とキャリア形成 （火曜Ⅴ限）	2	30	1・2	後期			後藤 和也	英語英文・日本史指定			
	60050	60052	” （木曜Ⅴ限）						国語国文・社会情報指定						
	主題別科目	60110	60111	心理学（火曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	石崎 毅	○	教職必修 栄養大との合同授業(単位互換による) 栄養大との合同授業(単位互換による) 前期開講（8～9月）				
		60110	60112	”（火曜Ⅲ限）											
		60130		日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学						
		60140		国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学						
		60150		現代社会論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央						
		60160		ジェンダー論	2	30	1・2	前期	山田彩起子						
		60190		健康と栄養	1	15	1・2	前期	金谷 由希						
60200		芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典								
情報リテラシー	60210	60211	情報処理演習Ⅰ（水曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	②	英語英文指定 国語国文指定 社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 社会情報・日本史指定 「情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい 「簿記会計演習」又は「応用情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい					
	60210	60212	”（木曜Ⅰ限）												
	60210	60213	”（水曜Ⅲ限）												
	60210	60214	”（水曜Ⅳ限）												
	60210	60215	”（金曜Ⅰ限）												
	60220	60221	情報処理演習Ⅱ（水曜Ⅰ限）	2	30	1・2	後期	鈴木 久美							
	60220	60223	”（木曜Ⅰ限）												
	60220	60224	”（水曜Ⅲ限）												
	60220	60225	”（火曜Ⅰ限）												
	60260		応用情報処理演習Ⅰ	2	30	1・2	前期	西川 友子							
	60270		応用情報処理演習Ⅱ	2	30	1・2	後期	伊豆田義人							
	60280		応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	後期	伊豆田義人							
	共通基礎科目	外国語（英語英文学科以外）	60310	英語一	2	30	1・2	前期			横山 利夫	②	国語国文学科 日本史学科 社会情報学科		
			60320	英語二										2	30
60330			英語三	2					30	1・2				前期	横山 利夫
60340			英語四	2					30	1・2				後期	渡邊真由美
60350			英語五	2					30	1・2				後期	小林 亜希
60360			英語六	2					30	1・2				前期	阿部 隆夫
60370			英語七	2					30	1・2				後期	松井 真人
60380			英語八	2					30	1・2				前期	太田 裕子
60390			英語九	2					30	1・2				後期	三枝 和彦
60400			英会話A	2					30	1・2				前期	マニ・タヴ・アコリ
60410		英会話B	2	30	1・2	前期	マニ・タヴ・アコリ								
60420		英会話C	2	30	1・2	後期	マニ・タヴ・アコリ								
60430		英会話D	2	30	1・2	後期	マニ・タヴ・アコリ								
60451		異文化理解実習	2	60	1・2	集中	英文専任教員								
60460		60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	②	30	1・2	前期	寺本 弘子						
60460		60462	”（月曜Ⅳ限）												
60470		60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子							
60470		60472	”（月曜Ⅳ限）												
60480			フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子							
60490			フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子							
60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広	英語英文・日本史指定							
60500	60502	”（月曜Ⅳ限）													
60500	60503	”（月曜Ⅱ限）													
60500	60504	”（月曜Ⅲ限）													
60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広	国語国文・社会情報指定							
60510	60512	”（月曜Ⅳ限）													
60510	60513	”（月曜Ⅱ限）													
60510	60514	”（月曜Ⅲ限）													
60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広								
60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広								

教養科目（令和2年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		〔 英語英文学科 〕	
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）								
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）								
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子			
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）								
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）								
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）								
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	集中	李 通江			
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）								
	60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
	60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
	60451		異文化理解実習	2	60	1・2	集中	英文専任教員			
保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期	比留間浩介	②	個人種目スポーツ	
	60620		スポーツ実技二							個人種目スポーツ	
	60630		スポーツ実技三							団体種目スポーツ	
	60640		スポーツ実技四							団体種目スポーツ	
	60650		スポーツ実技五							レクリエーション・スポーツ	
	60660		スポーツ実技六							レクリエーション・スポーツ	
	60670		スポーツ実技七							フィットネス	
	60680		スポーツ実技八							フィットネス	
	60690		スポーツ実技九							前期開講（8～9月）	
	60700		スポーツ実技十							冬季開講予定	
	60710		健康理論 ※1							1	15
60720		スポーツ文化論 ※1	2	30	1・2	後期	比留間浩介				

(注)・「○数字」は必修単位、「」○数字」は選択必修単位

- ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
- ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
- ・※1「健康理論」及び「スポーツ文化論」は、卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

講義科目名称：総合教養講座（60010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小池 隆太			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有 授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	受講生のキャリア形成の一助として本講座を開講する。 多彩な講師による実践的かつ専門性に基づいた話を幅広く聞くことによって、教養を高め、物の見方、捉え方をより豊かなものにし、将来の進路はもとより、人としての行い方や生き甲斐等について深く考えることを目標とする。
授業計画	別途掲示
授業概要	学外の講師により、各回完結型の講義を行う。講義内容は各回担当者によって多岐にわたるが、その道の専門家としての貴重な見解が聴取できる。また、この科目は地域貢献事業の一環として、広く県民の方々にも公開される。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	必要に応じて、資料等を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各界の現場で活躍する方々を講師として、毎回設定します。実社会での生の話が伺える貴重な機会ですので、なるべく多くの学生の履修を希望します。
評価方法	課題レポート30%、授業への参加度70%。 レポート課題は、12月中に掲示または印刷物配布をもってお知らせいたします。
参考文献	各回の講師とテーマは、後期開始直前に本学ホームページに掲載します。
備考	

講義科目名称：教養ゼミ（65000）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
本学専任教員			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標は以下二点である。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>
授業計画	－
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。</p> <p>全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」であり、具体的な授業計画は担当教員が決定する。なお、担当教員ごとのテーマは【教養ゼミのテーマ<科目コード>】のページを参照されたい。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	担当教員が指示する。
テキスト	開講時に担当教員が指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート、授業への参加度、授業形態などで評価する。 ・具体的な評価方法は担当教員が決定する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：キャリア実践講座（60031）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1	1	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現在の学生生活から将来の職業生活の移行となる「就職活動」について、企業・官公庁における採用活動や労働社会の現状等の視点を交えて、アクティブラーニング形式で学びを深める授業です。就職活動の成功や編入学試験合格は人生のゴールではありません。むしろ、そこを出発点にどのようなキャリアを歩むのかを考えることが大切です。とはいえ、目の前に迫っている就職活動などの進路決定をスムーズに行うことも、キャリア形成上は重要なことです。 以上を踏まえて、当授業では「社会人として活躍する」ために必要な知識やスキルについて、クラスメイトと学びあいながら、就職活動（≒初期キャリア形成）に必要な知識やスキルを習得したいと思います。これまでの自身の経験やそこから得た価値観などについて振り返りましょう。 授業の到達目標は「自分の経験や強みなどについて文章や言葉で説明できる」とします。エントリーシートや履歴書などで自分自身を表現したり、面接試験で自信の経験などを語ったりすることができる状態を目指します。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 就職活動の基礎知識 第3回 文章で自分自身を語る（履歴書やエントリーシートの書き方） 第4回 自分自身を理解し、第三者にPRするための方法 第5回 採用面接とコミュニケーション能力 第6回 働く社会への理解（仕事・会社選びの具体的な方策） 第7回 合同企業説明会や就活支援ウェブサイトの活用方法【ゲスト（人材業界）による講話と実習】 第8回 授業全体のまとめ
授業概要	教員の話聞くだけ、個人作業だけでなく、グループ編成を行い友達と協力しながら、進路選択に必要な知識の習得やスキルの向上を図ります。テーマに応じて外部ゲスト（人材業界）もお招きして、多角的な視点から指導を行います。 ※日時など受講に関する詳細は開講前に掲示します。
実務経験及び授業の内容	講師は人事・採用担当者としての職歴を有し、実務家の視点から指導を行う。なお、テーマにより外部のゲストスピーカー（就職活動に精通した人材派遣業界の実務家）を招聘する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること
テキスト	伊藤宏・高橋修・松坂暢浩「大学生のための実践的キャリア&就活講座」中央経済社1600円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	遠からぬ将来、多くの皆さんが直面する「就職活動」について、多面的に捉え論考する授業です。進路として民間企業への就職や公務員への就職を志望する人だけではなく、4年制大学への編入学希望者もぜひ受講してください（編入学した年（3年生）から間をあげずに就職活動が始まります）。 ※具体的には以下のような皆さんに特に受講をお勧めします。 ・キャリアセンのガイダンスを欠席しがちで、就職活動等全般に不安がある。 ・キャリアセンのガイダンスは出席していたが、この機会に就職活動等について復習したい。 ・志望先の企業や官公庁に、自分をどのようにPRすればよいかわからない ・編入学希望であるが、編入後を見据えて必要な情報収集を行いたい。 ・企業・官公庁の採用担当者（面接官）がどのような基準で学生を評価するのかを知りたい。 ・コミュニケーションが苦手で、面接試験やグループディスカッションが心配である。
評価方法	授業への参加態度（グループワークでの発言並びに都度作成を指示する成果物の質等）30% 授業中に指示する課題70% で評価します。
参考文献	前田安正「マジ文章書けないんだけど 朝日新聞ベテラン校閲記者が教える一生モノの文章術」大和書房1300円＋税等。必要に応じてコピー等を配布します。
備考	・事前にテキストを購入してください ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては授業の実施方法や内容等に変更が生じる場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有
授業形態：講義			

授業のテーマ及び到達目標	皆さん自身の「キャリア」について、「自分を知る」をテーマに展開します。就職活動（就活）や4年制大学への編入学試験では、「コミュニケーション能力」と称される汎用的なスキル（ジェネリック・スキル）が求められる傾向にあります。授業内のディスカッションやグループワーク等をおして、それらの能力の育成を図りたいと思います。併せて、今後の自分なりのキャリアについて考えてみましょう。当授業では「ジェネリック・スキルとは何かを理解できる」「どのような経験や活動が自身のジェネリック・スキルの伸長に關係しているかを言葉や文章で説明できる」を到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ジェネリック・スキルとは①（ジェネリック・スキルの理解と現状把握、前期の目標設定）</p> <p>第3回 コミュニケーション能力</p> <p>第4回 自己効力・モチベーション</p> <p>第5回 チーム・リーダーシップ</p> <p>第6回 意思決定</p> <p>第7回 キャリアにおける偶然性</p> <p>第8回 ジェネリック・スキルとは②（自身のジェネリック・スキルにおける中間評価と目標の再設定）</p> <p>第9回 メンター・発達のネットワーク</p> <p>第10回 適性・キャリアアンカー</p> <p>第11回 目標設定</p> <p>第12回 社会で活躍する社会人の話を聴き、自分とのギャップを考える</p> <p>第13回 適性検査の結果を分析し、自分自身を客観視する</p> <p>第14回 「生きる」ことをテーマとした映画を鑑賞し、今後のキャリアに思いをはせる</p> <p>第15回 授業全体のまとめ（自身のジェネリック・スキルの最終評価）</p>
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキル（特に「傾聴力」や「発信力」）を育成すべく、グループワークやディスカッション等を多く取り入れながら授業を行います。授業内の活動に取り組むことで、他者とコミュニケーションをとる力が育成されることでしょう。また、適性検査を体験してみても、自分自身を客観視するきっかけを作ります。入学したばかりの1年生も、進路決定を迫られている2年生にとっても有用な内容となるようにしたいと考えています。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成（企業内キャリア形成）等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	国立大学法人小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編「自分と仕事を考えるヒント1大学ノムコウ」日本経済評論社 価格 ¥1,980（本体¥1,800）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は直接的に就職活動や編入学試験を指導するものではありません。ただし、授業中のグループワークなどを通して話す力や聴く力が鍛えられるので、結果的に就職活動や編入学試験に役立つ情報やスキルは得られると考えます。特に人の話を聴いたり自分の意見や考えを発表することを通して体感的に学びを深めることを予定していますので、積極的に参加いただくことを希望します。
評価方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、アンケートへの協力等）30%、最終レポート等の記載内容等70%により評価する
参考文献	

備考	<ul style="list-style-type: none">・授業内容に応じて使用教室を変更する場合があります。掲示板を随時確認してください。・新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、授業の実施方法に変更が生じる可能性があります。また、ゲストスピーカーとの日程調整等により、実施内容や実施回を変更する場合があります

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	皆さん自身の「キャリア」について、「実社会を知る」をテーマに展開します。皆さんはいずれ社会に巣立っていくわけですが、実社会ではどのような能力や態度が求められるのでしょうか。この授業では、社会で活躍するために強く求められている基礎的・汎用的な能力である「ジェネリック・スキル」の育成を試みます。前半部分ではこれまでの自身の経験を振り返りながら、今後の進路・キャリアについて考えていきます。後半では、職場の基本的なワーク・ルールについて、アルバイトや心身の健康など身近なテーマを基に考察しましょう。実社会で活躍する社会人をゲストにお招きして話を聴く機会も設ける予定です。到達目標は「これまでの経験や今後の目標について文章で説明できる」「ワーク・ルールの基本について理解できる」です。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ジェネリック・スキルとは①（ジェネリック・スキルの理解と現状把握、後期の目標設定）</p> <p>第3回 「偶然のチャンス」を創り出し、モノにする</p> <p>第4回 「一皮むけた経験」を振り返り、今後の成長の糧にする</p> <p>第5回 時には流れに身を任せながら将来のキャリアを考えてみる</p> <p>第6回 「経験」と「リフレクション（振り返り）」</p> <p>第7回 「やりたいこと探し」よりも「やってみること（体験）」から進路を見つけ出す</p> <p>第8回 ジェネリック・スキルとは②（自身のジェネリック・スキルにおける中間評価と目標の再設定）</p> <p>第9回 働くことと労働法①（動画やクイズで働くルールの大枠をつかむ）</p> <p>第10回 働くことと労働法②（アルバイトや就職活動と労働法）</p> <p>第11回 働くことと労働法③（働きすぎと心身の健康）</p> <p>第12回 働くことと労働法④（職場における男女平等を考える）</p> <p>第13回 「ロールモデルと語る」の準備</p> <p>第14回 ロールモデルと語る（企業人事担当者等を招いての職業人講話・パネルディスカッション）</p> <p>第15回 授業全体のまとめ（ジェネリック・スキルの最終評価）</p>
授業概要	前半は、キャリアについて「社会で有用な能力を身につける」ことを意識しながら、自分の考えをまとめたり、その結果を学生同士で共有したりする活動を設けます。後半は、ワーク・ルールについて「ブラック企業・アルバイトから自分を守るための方法」、「女性が働きやすい職場とは？」など、皆さんにとって身近かつ重要なテーマを扱います。働く「社会」への理解を深めるためのプログラムです。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成（企業内キャリア形成）等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方や考え方を整理すること。
テキスト	（一財）全国大学実務教育協会編「実践キャリア考 体験からキャリアを考える」実教出版 定価：1,430円（本体：1,300円）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は直接的に就職活動や編入学試験を指導するものではありません。ただし、授業中のグループワークなどを通して話す力や聴く力が鍛えられるので、結果的に就職活動や編入学試験に役立つ情報やスキルは得られると考えます。特に人の話を聴いたり自分の意見や考えを発表することを通して体感的に学びを深めることを予定していますので、積極的に参加いただくことを希望します。
評価方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、アンケートへの協力等）30%、最終レポート等の記載内容等70%により評価する
参考文献	
備考	・授業内容に応じて使用教室を変更する場合があります。掲示板を随時確認してください。

	<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、授業の実施方法に変更が生じる可能性があります。また、ゲストスピーカーとの日程調整等により、実施内容や実施回を変更する場合があります</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 心理学への関心を高め、理解を深める。</p> <p>到達目標 心理学の知見と身近な生活場面を関連づけて考察したことを記述できる。</p>
授業計画	<p>第1回 心理学とは何か（心理学の様々な領域と心理学の役割） オリエンテーション</p> <p>第2回 発達心理学・臨床心理学（愛着が人柄と対人関係に与える影響）</p> <p>第3回 発達心理学・臨床心理学（愛着の重要性と愛着障害）</p> <p>第4回 発達心理学（自己中心性からの脱却とエリクソンの発達課題）</p> <p>第5回 発達心理学・学習心理学（学力や人生に影響を与える決定的要素）</p> <p>第6回 発達心理学・パーソナリティー心理学（自分らしさの指標）</p> <p>第7回 発達心理学・パーソナリティー心理学（自分を変化させ成長させる条件）</p> <p>第8回 発達心理学・臨床心理学（知能のとらえ方と知能検査）</p> <p>第9回 臨床心理学・教育心理学（様々な発達障害とその傾向）</p> <p>第10回 臨床心理学・医療心理学（様々な精神疾患とその症状）</p> <p>第11回 臨床心理学（カウンセリングと心理療法）</p> <p>第12回 学習心理学・認知心理学（認知カウンセリングとその技法）</p> <p>第13回 様々な心理学者とその主張の概要（フロイト、ユング、アドラー、メラニークライン等）</p> <p>第14回 様々な心理学者とその主張の概要（エリクソン、マズロー、ピアジェ、スキナー等）</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	<p>心理学で柱となる領域を、本講義では発達心理学、臨床心理学、社会心理学、認知心理学の4つと見立て、前者の二つを中心に授業展開し、各授業で代表的な知見を紹介します。その知見と日常生活を照らし合わせ、みなさんが私見を述べたり、議論したりすることによって知見に対する理解を深めていきます。さらに、記述することによって自分自身を振り返る時間をつくっていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	<p>学校心理士として中学校で勤務した実務経験を生かして授業を行います。</p>
時間外学習	<p>定期的にレポートを課します。期日厳守で提出してください。</p>
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>心理学の専門的な知見を身近な生活場面と関連付けて講義し、興味と関心を持って受講できるように工夫したいと思います。この講義を通して私もみなさんも同じように自分自身を見つめ直す時間にできればと考えています。</p>
評価方法	<p>授業・ワークシート（関心意欲態度・思考）80% レポート（知識定着・思考）20%</p>
参考文献	<p>「DSM-4」「DSM-5」（アメリカ精神医学会著 日本精神神経学会訳）</p>
備考	

講義科目名称：日本国憲法（60130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
堀田 学			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。 3. 人権概念を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
授業概要	<p>日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が生きています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。</p>
テキスト	<p>駒村圭吾編『プレステップ憲法(第2版)』弘文堂、2018年</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>自分の手を動かし書くことで理解も深まりますので、板書も多くしたいと思います。また、日々刻々と変化する社会の動きを把握するためにも、新聞やニュースに積極的に触れるようにしてください。</p>
評価方法	<p>期末試験（100%）</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：国際関係論（60140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
堀田 学			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論の理論を理解する。 2. グローバルな課題を理解する。 3. 国際問題を理解する。
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係3（ポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係（9・11以降の国際関係）</p> <p>第6回 国際関係理論1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立</p> <p>第11回 環境問題</p> <p>第12回 食糧問題</p> <p>第13回 安全保障</p> <p>第14回 日本外交</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。
テキスト	滝田賢治ほか編『国際関係学(第2版)』有信堂、2017年
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ニュースや新聞などの国際面を読んで、刻々と変わる国際情勢の把握に努めてください。
評価方法	期末試験（100%）
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第2版）』弘文堂、2016年 滝田賢治ほか編『国際関係学（第2版）』有信堂、2017年
備考	

講義科目名称：現代社会論（60150）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
坂口 奈央			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常の何気ないこと、当たり前を疑い、なぜそうなるのか、社会に起きるあらゆる出来事に対し関心を持ち、用語を正しく理解したうえで、自分なりの明確な見解、問題意識をもち、それを言語化できるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 概要説明と自己紹介</p> <p>第2回 「現代社会」では今、何が起きているのか（差別、偏見、監視社会など） 例）生活や仕事の不安定さ、激しい競争、見て見ぬふりなどその背景にあるものは何か</p> <p>第3回 この30年間、社会で何が起きたのか年表作成</p> <p>第4回 グループディスカッション、発表</p> <p>第5回 レポート作成</p> <p>第6回 疫病と災害、何が違うのだろうか</p> <p>第7回 社会の脆弱性について考える①</p> <p>第8回 社会の脆弱性について考える②</p> <p>第9回 グループディスカッション、発表</p> <p>第10回 レポート作成</p> <p>第11回 社会におけるレジリエンスを考える</p> <p>第12回 レジリエンスとなりうる社会のあり方</p> <p>第13回 ポストコロナ時代を予測しよう</p> <p>第14回 グループディスカッション、発表</p> <p>第15回 レポート作成</p>
授業概要	日常の中に埋もれがちな身近なテーマをもとに、現代の日本社会が、どのように形成されているのか、社会的問題は何かなどを、社会学の観点から紹介する。
実務経験及び授業の内容	担当者は、元民放テレビ局員である。他者にどのように伝えるのか、どのようにしたら伝わるのかを体得してもらえよう、授業では頻繁に意見を述べる機会をつくる。また新聞など身近な社会問題を取り上げる記事や文章を読み、テーマ設定後、グループディスカッションを行う。
時間外学習	新聞記事を読み、今の社会の流れを自分なりにとらえるトレーニングを日々積み重ねてください。
テキスト	指定テキストなし。資料は別途配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テーマをもとにこれからの日本社会がどうなっていくのか、他人ごとにせず、創造力を高めるため、積極的なディスカッションの場を設ける。これは、他者に説得力をもって話すことができる力を身につけられる狙いからである。なお、遅刻は認めません。
評価方法	授業内に3回実施する課題小レポート、授業内での発言内容
参考文献	
備考	

講義科目名称：ジェンダー論（60160）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
山田 彩起子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	①ジェンダーとは何か、②現在では当然のように存在する男女間の様々な問題の発生原因はどこにあるのか、の2点を理解することを目指します。
授業計画	<p>第1回 ジェンダーとは何か</p> <p>第2回 政治とジェンダー</p> <p>第3回 婚姻とジェンダー</p> <p>第4回 家とジェンダー</p> <p>第5回 財産とジェンダー</p> <p>第6回 職業とジェンダー</p> <p>第7回 同性愛</p> <p>第8回 異性装</p> <p>第9回 芸能とジェンダー</p> <p>第10回 買売春</p> <p>第11回 穢れとジェンダー</p> <p>第12回 美術・文芸とジェンダー</p> <p>第13回 教育とジェンダー</p> <p>第14回 天皇制とジェンダー—女帝の問題を中心に—</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	ジェンダーをめぐる問題はいつどのように発生したのか、歴史を遡って講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業では様々なテーマを扱います。その中から関心あるテーマを見つけ出し、レジュメの参考文献一覧にある先行研究を読んで知見を広めて下さい。
テキスト	毎回レジュメを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	期末レポートでは、授業内容に関わる先行研究のうちの何れか1本を読んでその要約と意見を書いていただきます。時間外学習の項目にも書きましたが、自分の関心あるテーマを見つけて先行研究から大いに学び、自分なりの考えを発展させて下さい。
評価方法	期末レポート100%
参考文献	毎回レジュメに記載します。
備考	

講義科目名称：健康と栄養（60190）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択
担当教員			
金谷 由希			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 「健康」の概念と、健康を維持増進するための「栄養」の重要性を理解する。 2. 現在及び将来の実生活において、健康の維持増進に有用な食生活の実践方法を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・健康と栄養について学ぶ意義 授業の進め方や評価方法について説明する。健康とは何か、健康づくりの三要素の一つである栄養とは何か、それらを学ぶことでどのように実生活に活かすことができるかを学ぶ。</p> <p>第2回 生活習慣病と栄養（生活習慣病の概念、食塩と高血圧） 生活習慣病とは何か。私たちの健康と食塩の関係について学ぶ。</p> <p>第3回 生活習慣病と栄養（肥満問題） 肥満大国であるアメリカを例に、肥満について学ぶ。</p> <p>第4回 生活習慣病と栄養(酒) どんなお酒をどのくらい、どのように飲むべきか学ぶ。</p> <p>第5回 地中海食とは よく耳にする地中海食とは何か、なぜ健康食と言われるのかを学ぶ。</p> <p>第6回 健康的な食事とは 野菜、卵、食塩、全粒穀物等を例に、健康的な食事とは何かを考える。</p> <p>第7回 ビタミン ビタミンの歴史と欠乏症について学ぶ。</p> <p>第8回 栄養健康情報の受けとめ方 飛び交う栄養健康情報に惑わされないために、情報の受けとめ方について考える。</p>
授業概要	健康と栄養の基礎的事項を学んだあと、栄養の過不足により生じる健康障害、特に生活習慣病等の疾病と食、食の歴史と食文化、健康の維持増進のために有用な食生活の実際等について学ぶ。
実務経験及び授業の内容	障がい者支援施設における管理栄養士としての実務経験があり、この経験を生かして栄養に関する講義を行う。
時間外学習	日頃から、健康や食・栄養に関する情報を、図書や新聞で収集しながら、授業で学んだことを実生活に活かす方策を考え、整理しておくこと。
テキスト	テキスト：使用しない。 必要な資料は、授業中に配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	私たちの体は食べた物でできている。食べることの大切さを知り、それを自身の生活に取り入れられるような授業を展開していきたい。
評価方法	授業内の小テスト70%、レポート30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：芸術学（60200）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石澤 靖典			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	美術作品の見方や分析方法を学びます。美術が社会や歴史、文学をはじめとする他の芸術形式とどのような関係にあるかを理解し、作品に対して学問的にアプローチするための手法を身につけます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 美術の歴史（概説）</p> <p>第3回 美術の歴史（概説）</p> <p>第4回 美術の歴史（概説）</p> <p>第5回 美術の歴史（概説）</p> <p>第6回 芸術の方法論</p> <p>第7回 芸術の方法論</p> <p>第8回 芸術の方法論</p> <p>第9回 芸術の方法論</p> <p>第10回 芸術の方法論</p> <p>第11回 芸術の方法論</p> <p>第12回 美術作品の分析</p> <p>第13回 美術作品の分析</p> <p>第14回 美術作品の分析</p> <p>第15回 美術作品の分析</p>
授業概要	前半ではおもに西洋の美術作品を例に挙げながら、様式論や図像学、心理学的アプローチなどの方法論を解説し、後半では作品分析を実践するための具体例を提示します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	美術展覧会や関連図書を通じ、日頃から芸術に対する興味・関心を持つこと。
テキスト	とくに教科書は指定しません。参考書については随時授業中に紹介します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の内容について関心を引くテーマがあれば、自分なりに参考書を読むなどして、さらに知見を深めるとよいでしょう。
評価方法	筆記試験（60％）と授業への参加度（40％）により評価します。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトのワードの基本的操作を習得します。 ワードが使えるようになったあとでプレゼンテーション用にパワーポイント（プレゼンテーション用ソフト）の基本的操作を習得します。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス シラバス内容を詳しく説明します。 授業の進め方（すべて対面授業～すべて遠隔授業の場合をいくつかの段階に分ける）等を説明します。</p> <p>第2回 パソコンの起動と終了・パソコンの基本操作①：タイピング</p> <p>第3回 パソコンの基本操作②：日本語入力・Wordの基本操作</p> <p>第4回 レイアウトと書式設定①：文字の修飾など</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定②：罫線など</p> <p>第6回 表の作成①：表の作成</p> <p>第7回 表の作成②：文字列を表にする・レイアウトと書式設定③：ルビなど・印刷</p> <p>第8回 課題①：Wordの基本操作</p> <p>第9回 ビジネス文書①：社内文書</p> <p>第10回 ビジネス文書②：社外文書</p> <p>第11回 図の挿入</p> <p>第12回 課題②：ビジネス文書</p> <p>第13回 パワーポイントの基本操作</p> <p>第14回 課題：総合</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	講義では、毎回、学習テーマを設定し、操作方法を説明しながら一緒に操作練習をしたあと、学習テーマに沿った課題をこなすことで基本的操作を習得できるようにします。 遠隔授業時は、操作方法を配布資料で確認してください。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	前回までの講義内容は理解できているとして進みます。操作に不安のある方は練習をしておいてください（必要時間30分程度）。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義ではパソコンが苦手な人やあまり利用したことのない人を基準に授業を構築しているので、チャレンジしてみませんか？
評価方法	授業内課題（25%×2回）、期末課題（50%）。
参考文献	
備考	第1回目の講義に必ず出席すること。 遠隔授業の場合、TeamsのClassNoteBookを利用します。 TeamsやClassNoteBookへのアクセスは米短の公式発表に従ってください。 第1回目は履修制限しませんが、第2回目以降は履修登録した学生のみ限定いたします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトの基本的操作を習得します。授業の後半でプレゼンテーション用にパワーポイントの基本的操作を習得します。日商PC検定試験の3級に合格するレベルを目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンとメールソフトの基本操作</p> <p>第3回 タイピング、日本語入力、ファイル操作</p> <p>第4回 ワープロソフトの基本操作</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定(1) (文字の修飾など)</p> <p>第6回 レイアウトと書式設定(2) (罫線など)</p> <p>第7回 表の作成(1) (基本)</p> <p>第8回 表の作成(2) (応用)</p> <p>第9回 レイアウトと書式設定(3) (拡張書式設定)</p> <p>第10回 ビジネス文書(1) (社内文書)</p> <p>第11回 ビジネス文書(2) (社外文書)</p> <p>第12回 プレゼンテーションスライドの制作(1) (テーマ設定とアウトライン)</p> <p>第13回 プレゼンテーションスライドの制作(2) (基本操作)</p> <p>第14回 プレゼンテーションスライドの制作(3) (アニメーション効果)</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	授業では毎回学習テーマを設定し、まずチュートリアルによるソフトの機能説明とともに操作を練習した後、対応する課題演習を行い、基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ/システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。
時間外学習	授業で解説した内容に対応する課題を次回までに提出してもらいます。空き時間などを活用して作業することを求めます。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	「コンピュータは苦手」という方でも定式化されたやり方で文書作成を行うことで、ビジネス文書やプレゼンスライドを作成することは困難ではありません。気軽に取り組めるようになりましょう。
評価方法	授業内課題（70%）、期末課題（30%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ワープロソフトのワードとプレゼンテーションソフトのパワーポイントの基本操作を習得するとともに、正しく伝わりやすい文書作成上の留意点を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。		
授業計画	第1回	情報リテラシーとは何か ガイダンス	
	第2回	文章の有用性と正しい文書表現の重要性	
	第3回	パソコンの基本操作と電子メールの送受信	
	第4回	ワードの基本操作（タイピング、日本語入力、）	
	第5回	電子メールの書き方	
	第6回	ビジネス文章の作成（社内文書）	
	第7回	ビジネス文章の作成（社外文書）	
	第8回	図表の作成（基本）	
	第9回	図表の作成（応用）	
	第10回	表のあるビジネス文章の作成	
	第11回	図のあるビジネス文章の作成	
	第12回	パワーポイントの基本操作	
	第13回	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの作成	
	第14回	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの作成と吟味	
	第15回	総合課題	
授業概要	毎回、課題の説明を行った後に課題解決の時間を設けます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	学習した操作を繰り返し復習し、ブラインドタッチ操作の練習をしてください。		
テキスト	必要に応じて資料を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	正しい文書表現や適切な図表を使ってビジネス文章を作成できることは、丁寧な文字で文章を書くことと同じように今後の社会生活で役立ちます。情報リテラシーを少しずつ高めていきましょう。		
評価方法	授業内課題（80%） 期末課題（20%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：情報処理演習 I (日) (60210)

授業コード：60214

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ワープロソフトのMicrosoft Word、Microsoft Power Pointの基本動作を習得します。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	パソコンの基本操作、メールの送受信	
	第3回	Wordの基本操作（タイピング、日本語入力）	
	第4回	文字装飾、箇条書き、罫線、ページ設定など	
	第5回	表の作成	
	第6回	表の編集	
	第7回	ビジネス文書（社内文書）	
	第8回	ビジネス文書（社外文書）	
	第9回	図形・図表を使った文書の作成	
	第10回	Excelデータを利用した文書の作成	
	第11回	グラフの編集	
	第12回	コメントの作成と差し込み文章	
	第13回	PowerPointの基本操作	
	第14回	プレゼンテーションスライドの作成	
	第15回	総まとめ	
授業概要	毎時、演習課題を提示します。講義時間は課題の解説を行ったのちに、課題演習に取り組みます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	各回の課題をクリアできるようにすること。ブラインドタッチの練習。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	演習の難易度は日商PC検定3級程度です。文書やプレゼンテーション資料の作成スキルは、学生生活やその後においても不可欠です。授業内の演習を通して、情報処理能力の向上を目指しましょう。		
評価方法	授業内課題（100%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	企業で広く使用されているWord、Excel、PowerPointの基本操作を学修し、簡易的なビジネス文書やプレゼンテーションの作成ができるようになる、日商PC検定3級程度の問題に対応できるようになる、という2点の能力を身に付ける。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	パソコンの基本操作：起動と終了、メールの送受信	
	第3回	タイピングと日本語入力：キーボードによる日本語入力の基礎練習	
	第4回	タイピングと日本語入力：キーボードによる日本語入力の応用練習	
	第5回	タイピングと日本語入力：入力した文字列の装飾とレイアウト設定	
	第6回	復習と応用：第3回から第5回までを理解する	
	第7回	業務データの表作成：データ入力と書式設定	
	第8回	業務データの表作成：数式入力と表示形式設定	
	第9回	業務データの表作成：参照方法と表の編集	
	第10回	復習と応用：第7回から第9回までを理解する	
	第11回	プレゼンテーションの基礎：視覚表現によるレトリック	
	第12回	プレゼンテーションの基礎：基本操作とスライド制作1	
	第13回	プレゼンテーションの基礎：スライド作成2	
	第14回	復習と応用：第11回から第13回までを理解する	
	第15回	総括	
授業概要	第3回から第6回まではWord、第7回から第10回まではExcel、第11回から第14回まではPowerPointについて学修します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	知識定着のため、各回につき1時間程度の復習が好ましい。		
テキスト	資料を適宜配布する形式。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	パソコンの操作は失敗してもやり直すことができます。何度失敗しても構いません。少しずつ丁寧にやり続けることで、誰でもできるようになります。できた！を積み重ねて、成功することや達成することの喜びを感じつつ、知識を修得していきましょう。		
評価方法	授業内課題（50%）、期末課題（30%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 表計算の三つの基本機能(集計, グラフ表示, 簡易データベース)を習得する. 2. 関数の働きを理解して計算式を書き表すなど, 考える力と実践的な処理能力を養う.
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 データ入力の基本</p> <p>第3回 表のレイアウト</p> <p>第4回 数式の利用</p> <p>第5回 Sheetのリンク</p> <p>第6回 グラフの作成・印刷</p> <p>第7回 課題①</p> <p>第8回 課題①の解答・データベース</p> <p>第9回 関数①: if関数など</p> <p>第10回 関数②: sumif関数など・集計表</p> <p>第11回 ピボットテーブル</p> <p>第12回 課題②</p> <p>第13回 課題②の解答・第1回～第12回の復習</p> <p>第14回 期末課題</p> <p>第15回 期末課題の解答</p>
授業概要	講義は解説と演習によって構成される. 解説では一緒に操作練習をし, 演習では例題や課題を自分の頭で考えながらこなしていくことで, 表計算を実際の問題の処理に活用する能力を鍛える.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習: 必要ありません. 復習: 学習したことの定着のために必要な方は練習をしてください(必要時間30分程度).
テキスト	資料を配布します.
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	Wordに比べて敷居が高く感じるかもしれませんが, 操作方法はWordに似ています. Excelが使えるようになるとWordよりも表現範囲が増えます. 進学・就職のお供にどうぞ♪
評価方法	確認課題2回(25%×2)と期末課題(50%)で評価します.
参考文献	
備考	1回目の講義には必ず出席すること. 遠隔授業となった場合は, 授業方法や評価方法を変更する可能性があります. 詳しくは第1回の講義で説明いたします.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ビジネスシーンにてオフィスツールとして利用頻度の高い表計算ソフトの使い方や機能についての理解を深める。 【到達目標】表計算ソフトウェアを使う上で必須の基本機能（表計算、グラフ作成、関数等）を操作できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 各回の授業ではタイピング課題に取り組む。タイピング課題ファイルは所定のフォルダに授業時間内に提出すること。</p> <p>第2回 表計算ソフトウェアとは 授業では表計算ソフトウェアとしてMicrosoft Excelを使用する。</p> <p>第3回 表計算ソフトウェアの基本的な操作 課題1</p> <p>第4回 表を作成してみよう 課題2</p> <p>第5回 数式を構築してみよう 課題3</p> <p>第6回 関数を扱ってみよう 課題4</p> <p>第7回 関数を用いて計算してみよう 課題5</p> <p>第8回 関数を用いて状況に応じた計算や処理を行ってみよう 課題6</p> <p>第9回 グラフの作り方やグラフの編集の方法を知ろう 課題7</p> <p>第10回 いろいろなグラフを作成してみよう 課題8</p> <p>第11回 簡易データベースとして利用してみよう 課題9</p> <p>第12回 ピボットテーブルで集計してみよう 課題10</p> <p>第13回 ピボットテーブルで集計してみよう 課題11</p> <p>第14回 総合実践 課題12</p> <p>第15回 まとめ 期末課題</p>
授業概要	実務で利用されることの多い表計算ソフトの使い方や機能を演習形式で習得し、履修者全員が大学での学びや活動に必要なレベルに到達するとともに、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし情報処理演習Ⅱの授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として復習課題を課します。これまでの学習内容（例題・課題を含む）のすべてを確認したうえで、各回の復習課題に取り組み期日までに提出してください。
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	新しい知識や技術の習得は、毎回の授業（演習）を積み重ねていくことにより達成されるものです。授業を欠席しないことはもとより、授業内容を理解し習得できるよう留意して臨んでほしい。また素早いタイピングを行うことはパソコンを利用した情報利活用を行う上で欠かすことはできません。タイピングの練習も真剣に取り組んでほしい。また授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。
評価方法	復習課題の得点の合計(10点×12回=120点満点)を50%、授業時間内タイピング課題の得点の合計(2点×15回=30点満点)を15%、期末課題の得点(100点満点)を35%とし、総合得点60点以上を合格とします。なお、授業時間内タイピング課題は授業時間内に指定の提出フォルダに提出されたものを評価対象とします。
参考文献	図書館にはExcelに関連する本が数多く所蔵されている。
備考	USBメモリと配布済み資料を毎回持参すること。毎回出欠をとります。遅刻した場合は必ず授業終了後に遅れた旨を自己申告してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日商PC検定3級程度の内容を想定しながらExcelの基本的操作を学修し、業務遂行に求められる操作知識を理解し活用することができる能力を身に付けます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：日商PC検定試験の概要</p> <p>第2回 業務に応じた計算処理：四則演習や関数を使った計算処理</p> <p>第3回 業務に応じた集計処理：並び替え、単純集計、クロス集計</p> <p>第4回 業務データの分析：グラフ化、ABC分析、Zチャート</p> <p>第5回 業務データの保管：ファイルの管理、フォルダーによる分類</p> <p>第6回 表の作成：データの入力、書式設定</p> <p>第7回 表の作成：数式の入力、表示形式の設定</p> <p>第8回 表の作成：絶対参照の数式の入力、表の編集</p> <p>第9回 データの集計：データの集計機能、ピボットテーブル</p> <p>第10回 データの集計：集計機能による集計、関数による集計</p> <p>第11回 グラフの作成：グラフの作成手順と構成要素</p> <p>第12回 グラフの作成：グラフの作成、複合グラフの作成</p> <p>第13回 総合演習Ⅰ</p> <p>第14回 総合演習Ⅱ</p> <p>第15回 総合演習Ⅲ</p>
授業概要	操作方法をスクリーンに投影しながら、演習講義を進めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	演習中にメモを取り、3回程度は繰り返し復習することが望ましい。
テキスト	資料を適宜配布する形式。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Excelは失敗しても「元に戻す」でやり直すことができます。何度失敗しても構いません。少しずつ丁寧にやり続けることで、誰でもできるようになります。できた！を積み重ねて、成功することや達成することの喜びを感じつつ、知識を修得していきましょう。
評価方法	課題提出（100%）
参考文献	日本商工会議所編（2015）『よくわかるマスター日商PC検定データ活用3級 公式テキスト&問題集』FOM出版。
備考	指定テキストを毎回持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	表計算ソフトエクセルの基本操作を習得するとともに、数値を整理および分析することの必要性とその方法を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 データ入力と計算処理の基本</p> <p>第3回 表の作成と関数利用の基本 (IF関数)</p> <p>第4回 データ提示に適切なグラフの作成</p> <p>第5回 第2回から第4回までの既習事項をふまえた課題の解決</p> <p>第6回 書式設定を含んだ表の作成</p> <p>第7回 利用頻度の高い関数</p> <p>第8回 数式の入力と表の編集</p> <p>第9回 第6回から第8回までの既習事項をふまえた課題の解決</p> <p>第10回 ピボットテーブル</p> <p>第11回 集計機能による集計</p> <p>第12回 関数による集計 (SUMIF関数)</p> <p>第13回 関数による集計 (COUNTIF関数)</p> <p>第14回 第10回から第13回までの既習事項をふまえた課題の解決</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	毎回、課題の説明を行った後に課題解決の時間を設けます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	学習した操作を繰り返し復習し、ブラインドタッチ操作の練習をしてください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	数値を整理したり分析する力を身につけることは、自分自身の経済活動をよりよいものにするにとどまらず、仕事においてもアドバンテージとなります。情報リテラシーを少しずつ高めていきましょう。
評価方法	授業内課題 (80%) 期末課題 (20%)
参考文献	
備考	

講義科目名称：応用情報処理演習 I (60260)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】業務データの処理・分析など、将来のビジネスパーソンとして必要な情報リテラシーの素養の基礎を身につける。</p> <p>【到達目標】日商P C検定試験データ活用2級合格レベル相当の表計算ソフトウェアの操作を行える。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 各回の授業ではタイピング課題に取り組む。授業では表計算ソフトウェアとしてMicrosoft Excelを使用する。</p> <p>第2回 業務で使用される計算 課題1、課題2</p> <p>第3回 業務で使用される計算 課題3、課題4</p> <p>第4回 関数や計算式を用いた処理の取り扱い 課題5</p> <p>第5回 表からのデータ検索・抽出 課題6</p> <p>第6回 ピポットテーブルを用いたデータの集計 課題7</p> <p>第7回 ピポットテーブルを用いたデータの集計 課題8</p> <p>第8回 複合グラフとその作成 課題9</p> <p>第9回 グラフを使った分析例 課題10</p> <p>第10回 ABC分析 課題11</p> <p>第11回 総合実践</p> <p>第12回 総合実践</p> <p>第13回 総合実践</p> <p>第14回 総合実践</p> <p>第15回 まとめの試験 日商P C検定試験データ活用2級程度の内容を出題する。試験時間：40分間</p>
授業概要	情報処理演習Ⅱに引き続き、パソコンを利用した情報利活用について、毎回実践的に演習していくことにより将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。そしてビジネスシーン等を意識した課題に取り組むことで「情報リテラシー」をさらに磨いていく。なお情報処理演習Ⅱで学んだ内容・技能は既に知っているのものとして演習を進める。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし応用情報処理演習Ⅰの授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。これまでの学習内容（例題・課題を含む）のすべてを確認したうえで、各回の課題に取り組み期日までに提出してください。
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業を通して学んだことを生かし、日商P C検定試験データ活用2級の受験にチャレンジし合格を勝ち取ってほしい。また、素早いタイピングはパソコンを利用した情報利活用を行う上で欠かすことはできない。タイピングの練習も真剣に取り組んでほしい。 なお、授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。
評価方法	復習課題の得点の合計(10点×11=110点)を55%、授業時間内タイピング課題の得点の合計(2点×15回=30点満点)を15%、まとめの試験(各問題の配点の総合計を満点とする)を30%とし、総合得点60点以上を合格とします。まとめの試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。まとめの試験では日商P C検定試験データ活用2級程度の内容を出題します。また、授業時間内タイピング課題は授業時間内に指定の提出フォルダに提出されたものを評価対象とします。
参考文献	日商P C検定試験データ活用に関するテキストが図書館などに数多く所蔵されています。

備考	情報処理演習Ⅱで学んだ内容・技能は既知っているのものとして講義を行うため、情報処理演習Ⅱを履修済みであることが望ましい。毎回の授業の出席確認を呼名により行います。遅刻した場合は必ず授業終了後に遅れた旨を自己申告してください。

講義科目名称：応用情報処理演習Ⅱ（60270）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	「応用情報処理演習III」と合わせて、この授業の目的は商業簿記の簿記一巡の手続きを理解し記帳方法を学ぶことである。「日商簿記3級検定試験」で求められている簿記会計の知識と実践的なスキルの習得を到達目標としている。		
授業計画	第1回	簿記の基本。仕訳（開業・金融機関との取引） ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	仕訳（仕入・売上）	
	第3回	仕訳（商品券・有価証券など）	
	第4回	総勘定元帳―転記（勘定口座）（各種取引）	
	第5回	総勘定元帳―転記（勘定口座）（人名勘定）	
	第6回	補助記入帳	
	第7回	試算表	
	第8回	決算整理（現金過不足・消耗品・売上原価）	
	第9回	決算整理（貸倒・減価償却・繰延べ・見越し）	
	第10回	精算表	
	第11回	帳簿の締め切り	
	第12回	貸借対照表・損益計算書	
	第13回	貸借対照表・損益計算書	
	第14回	貸借対照表・損益計算書	
	第15回	伝票	
授業概要	「応用情報処理演習III」の同時履修を前提に構成されている授業である。本授業では「解説」と基本的な手続きを学習して、「応用情報処理演習III」では実践的な問題を解く。「日商簿記3級検定試験」（商業簿記）の範囲を網羅するので、仕訳、転記、試算表、決算、精算表、財務諸表などの知識とスキルを習得する。また、2月の簿記検定を受験される方を念頭においているので、毎週多くの課題を提出してもらう形で短期集中型の授業を行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、1時間の事前学習、3.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、簿記一巡の手続きの理解、財務諸表の作成スキルなどの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。		
テキスト	適宜資料を配付する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2月の検定試験を受けられる方向けの授業になります。短期集中的にたくさんの課題をこなしながら簿記3級の範囲を網羅します。実践的なスキルなので、ぜひ、学生のうちに身につけてください。		
評価方法	授業課題およびノートの点検：10回 x 5点 = 50点。 総合課題：2回 x 5点 = 10点。 期末試験：40点。 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点 授業の進捗状況などの関係で評価方法が若干変更となる場合もある		
参考文献	初回に紹介する。		

備考	<p>(1) 「応用情報処理演習III」の並行履修を前提としている。この授業では、「概念」の解説と例題を確認して、「応用情報処理演習III」では実践的な問題を解く。</p> <p>(2) 日商簿記3級検定試験を受けられる受講生が対象である。</p> <p>【注意】《高大連携の高校生の皆さんへ》(a) 「日商簿記3級検定試験」を受験することが前提なので、受験後の報告が必須、(b) ビジネス、マーケティング等の企業経営関連の授業等を受講している、あるいは、「全商簿記」を受験していること、(c) 「応用情報処理演習III」をも同時に受講すること。なお、受講申込の際に証明できるもののコピーを添付してください。</p>
----	--

講義科目名称：応用情報処理演習Ⅲ（60280）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	「応用情報処理演習II」と合わせて、この授業の目的は商業簿記の簿記一巡の手続きを理解し記帳方法を学ぶことである。日商簿記3級で求められている簿記会計の知識と実践的なスキルの習得を到達目標としている。
授業計画	<p>第1回 仕訳（開業・金融機関との取引）の演習問題 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 仕訳（仕入・売上）の演習問題</p> <p>第3回 仕訳（商品券・有価証券など）の演習問題</p> <p>第4回 総勘定元帳―転記（勘定口座）（各種取引）の演習問題</p> <p>第5回 総勘定元帳―転記（勘定口座）（人名勘定）の演習問題</p> <p>第6回 補助記入帳の演習問題</p> <p>第7回 試算表の演習問題</p> <p>第8回 決算整理（現金過不足・消耗品・売上原価）の演習問題</p> <p>第9回 決算整理（貸倒・減価償却・繰延べ・見越し）の演習問題</p> <p>第10回 精算表の演習問題</p> <p>第11回 帳簿の締め切りの演習問題</p> <p>第12回 貸借対照表・損益計算書の演習問題―その1</p> <p>第13回 貸借対照表・損益計算書の演習問題―その2</p> <p>第14回 貸借対照表・損益計算書の演習問題―その3</p> <p>第15回 伝票の演習問題</p>
授業概要	「応用情報処理演習II」の同時履修を前提に構成されている演習科目である。本演習では「応用情報処理演習II」で学習する理論や例題などへの理解を深めるための実践的な問題を解く。「日商簿記3級検定試験」（商業簿記）の範囲を網羅するので、仕訳、転記、試算表、決算、精算表、財務諸表などの知識とスキルを習得する。また、2月の簿記検定を受験される方を念頭においているので、毎週多くの課題を提出してもらう形で短期集中型の授業を行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1時間の事前学習、3.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、簿記一巡の手続きの理解、財務諸表の作成スキルなどの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	適時資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2月の検定試験を受けられる方向けの授業になります。短期集中的にたくさんの課題をこなしながら「日商簿記3級検定試験」の範囲を網羅します。実践的なスキルかつ社会でも生かされるので、ぜひ、学生のうちに身につけてください。
評価方法	<p>授業課題およびノートの点検：10回 x 5点 = 50点。</p> <p>総合課題：2回 x 5点 = 10点。</p> <p>期末試験：40点。</p> <p>公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点</p> <p>携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点</p> <p>授業の進捗状況などの関係で評価方法が若干変更となる場合もある</p>
参考文献	初回に紹介する。

備考	<p>(1) 「応用情報処理演習II」の並行履修を前提としている。この演習では、「応用情報処理演習II」で学習する「概念」とその周辺などに関する実践的な問題を解く。</p> <p>(2) 「日商簿記3級検定試験」を受けられる受講生が対象である。</p> <p>【注意】《高大連携の高校生の皆さんへ》(a) 「日商簿記3級検定試験」を受験することが前提なので、受験後の報告が必須、(b) ビジネス、マーケティング等の企業経営関連の授業等を受講している、あるいは、「全商簿記」を受験していること、(c) 「応用情報処理演習II」をも同時に受講すること。なお、受講申込の際に証明できるもののコピーを添付してください。</p>
----	---

講義科目名称：英語一（60310）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	基本的な英文法を理解し、やさしい英語で書かれた文章を理解できるようになること。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、unit 11 A Nice Hotel or an Ice Hotel?(Wh-疑問文)</p> <p>第2回 Unit 12 Who Needs Real Money? (可算名詞/不可算名詞)、Unit 13 Smart Houses(代名詞)</p> <p>第3回 Unit 13 Smart Houses(代名詞)、Unit 14 For the Love of Sports (形容詞)</p> <p>第4回 Unit 15 Amusement Parks (形容詞の比較級と最上級)、Unit 16 It's ALL About Location (場所や移動を表す前置詞)</p> <p>第5回 Unit 16 It's ALL About Location (場所や移動を表す前置詞)、Unit 17 Barak Obama (時を表す前置詞)</p> <p>第6回 Unit 18 Motivation (副詞)、Unit 19 Pets (不定詞と動名詞)</p> <p>第7回 Unit 19 Pets (不定詞と動名詞)、Unit 20 Teleworking (接続詞)</p> <p>第8回 Unit 21 Our Precious Earth (従位接続詞)、Unit 22 Marriage (関係節)</p> <p>第9回 Unit 22 Marriage (関係節)、Unit 1 Getting into Hot Water (Be動詞)</p> <p>第10回 Unit 2 Tips for University Students (命令文)、Unit 3 What Happens to Our Trash? (一般動詞)</p> <p>第11回 Unit 3 What Happens to Our Trash? (一般動詞)、Unit 4 To Your Health (現在進行形)</p> <p>第12回 Unit 5 Hello Cutie (過去形)、Unit 6 Thank you John and Christopher (過去進行形)</p> <p>第13回 Unit 6 Thank you John and Christopher (過去進行形)、Unit 7 Street Fashion & Fast Fashion (現在完了形)</p> <p>第14回 Unit 8 It's in the Bag (受動態)、Unit 9 Cars of the Future (will /be going to)</p> <p>第15回 Unit 9 Cars of the Future (will /be going to)、Unit 10 The Tsukiji Fish Market(助動詞)</p>
授業概要	英語が得意でない学生を対象にした内容です。しかし、毎回、予習は必要です。興味深いトピックについて書かれたやさしい文章を読んで、その中で用いられている文法事項を復習し、練習問題によって内容理解を確認します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週の範囲を必ず予習をすること。
テキスト	Robert Hickling, 市川泰弘編 Reading Sense 金星堂 2000円+税 テキストは大学購買部（さわらび）で取り扱っています。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	出席を重視します。予習をして、どこが理解できないかをはっきりさせて授業に臨むこと。最初、辞書を使わないで英文を読み、理解できない部分をチェックします。その後、辞書で調べて、理解を深めるようにすること。それでも、理解できないところは授業中に質問してください。
評価方法	試験2回で60点、主体的な授業参加40点(授業中の発言、2/3以上の出席、1回欠席6点減点、受講受理期間中も出席を取る)。1回目の試験は7月中旬から下旬を予定しています。
参考文献	
備考	学年指定はしていないが、英語一は1年生に限って受講してもらいたい。1年次に外国語科目の単位を取得していない学生は2年生でも受講してかまわない。

講義科目名称：英語二（60320）

授業コード：

英文科目名称：English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習・講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 初級英文法の内容を再確認します。</p> <p>2. 構文を理解して英文読解の基礎力をつけることを目標とします。</p>
授業計画	<p>第1回 Intoroduction：5文型について</p> <p>第2回 Unit 1 名詞 ・ Unit 2 冠詞</p> <p>第3回 Unit 3 代名詞（1） ・ Unit 4 代名詞（2）</p> <p>第4回 Unit 5 時制 ・ Unit 6 進行形</p> <p>第5回 Unit 7 完了形（1） ・ Unit 8 完了形（2）</p> <p>第6回 Unit 9 助動詞（1） ・ Unit 10 助動詞（2）</p> <p>第7回 Unit 11 態（1） ・ Unit 12 態（2）</p> <p>第8回 Unit 13 不定詞（1） ・ Unit 14 不定詞（2）</p> <p>第9回 Unit 15 分詞（1） ・ Unit 16 分詞（2）</p> <p>第10回 Unit 17 動名詞（1） ・ Unit 18 動名詞（2）</p> <p>第11回 Unit 19 形容詞・副詞 ・ Unit 20 比較（1）</p> <p>第12回 Unit 21 比較（2） ・ Unit 22 前置詞</p> <p>第13回 Unit 23 関係詞（1） ・ Unit 24 関係詞（2）</p> <p>第14回 Unit 25 仮定法（1） ・ Unit 26 仮定法（2）</p> <p>第15回 まとめ：構文の理解</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・英語が苦手だけれども、チャレンジしたい学生向けの授業とします。特に英文法の復習を目的とします。 ・テキストの構成は、前半が文法説明とその練習問題、後半はショート・リーディングとなっています。 ・授業では1回に2課進むことを目標にします。 ・解答はパワーポイントで提示します。 ・予習が前提の授業となります。ノートを1冊用意してください。
実務経験及び授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県立高等学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし英語二の授業を行う。
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『読解力につなげるコア英文法』（朝日出版）1,600円（本体価格）ISBN 978-4-255-15638-5
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・解答の提示はPower Pointを使います。辞書を教室に持ってくるように（電子辞書も可）
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度（50％）、筆記試験（50％）
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語三（60330）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業では読解力向上に主眼を置く。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	Hibari Misora(美空ひばり)	
	第3回	Shizuka Arakawa (荒川静香)	
	第4回	Yoshiko Sakurai (櫻井よしこ)	
	第5回	Taguchi (田口 荘)	
	第6回	Hiraizumi (歴史遺産 平泉)	
	第7回	Rice (ハイテク米づくり)	
	第8回	Ecocircle (エコサークル)	
	第9回	Sustainable Paper Manufacturing (環境持続型製紙)	
	第10回	Frozen Foods (グルメ冷凍食品)	
	第11回	Anti-cancer Diet (アンチ・キャンサーダイエット)	
	第12回	Postal System Privatization (郵政民営化)	
	第13回	Disaster Prevation (防災)	
	第14回	JRA (日本中央競馬会)	
	第15回	Systems Integration (システム・インテグレーション)	
授業概要	テキストの文章には重要な語彙、イディオム、構文などが適切にちりばめられて、多様性に富んだ英文が学べるように配慮されている。テキストでは環境問題や文化、教養、健康、そしてビジネスをテーマとし、それに関連した題材が選ばれている。授業では全訳はしない。各受講者が予習して、英文解釈に自信のない箇所を訳してもらい、授業担当者が構文や文法などについて説明し、誤りに気づいてもらうようにする。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	それぞれのテーマについて、各自で詳しく調べてみてください。		
テキスト	編著者 クリストファー・ブルスミス他 ECO-INNOVATION AND PROSPERITY(エコイノベーションと繁栄) 南雲堂 (2009) 絶版になっているので、プリントを使用する。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	毎回予習が必要です。予習をして、どこがわからないかを受講者に授業で言ってもらい、その箇所を重点的に説明します。予習では最初本文を辞書なしで読み、わからない部分をチェックし、それから辞書などで調べること、そして、何度も音読することです。		
評価方法	主体的な授業参加40点(授業中の発言、3分の2以上の出席が条件で、欠席1回につき5点減点。受講受理期間も出欠を取ります)。授業の出席登録はホームページから行ってください。 試験2回(60点)1回目の試験は7月中旬～下旬を予定しています。		
参考文献			
備考	学年指定はしていないが英語三は2年生に限って受講してもらいたい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 英語を辞書を使いながら、正しく読めるようになることを目標にします。</p> <p>2. 英語で書かれている内容を日本語にでき、重要なポイントを理解できるようになることを目指します。</p> <p>3. 英語で聞いたことを理解し、適切に答えることができることを目指します。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、評価方法についての説明 テキストの「INTRODUCTION」を読む。探偵の登場について。</p> <p>第2回 Unit 1 「赤毛同盟」 pp. 8-10 英文を読み、内容に対するクイズに答える。</p> <p>第3回 Unit 1 「赤毛同盟」 pp. 10-13 英文を読んで、内容を把握する。英語で問われた質問に対して、答える。</p> <p>第4回 Unit 1 小テスト、Unit 2 「赤毛同盟」 Unit 1の小テスト pp. 14-16 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第5回 Unit 2 「赤毛同盟」 pp. 16-19. 英文を読んで内容を把握する。Unitのまとめ</p> <p>第6回 Unit 2 小テスト Unit 3 「赤毛同盟」 Unit2小テスト pp. 20-21 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第7回 Unit 3 「赤毛同盟」 pp. 22-24 英文を読んで、内容を把握する。英語で問われた質問に対して、答える。</p> <p>第8回 Unit 3 「赤毛同盟」 Unit 4 pp. 25-27 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第9回 Unit 3 小テスト Unit 4 「赤毛同盟」 Unit 3 小テスト pp. 28-30 英文を読んで、内容を把握する。英語で問われた質問に対して、答える。</p> <p>第10回 Unit 4 「赤毛同盟」 Unit 5 「赤毛同盟」 pp. 31-34 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第11回 Unit 4 小テスト Unit 5 「赤毛同盟」 pp. 35-37</p> <p>第12回 Unit 5 小テスト Unit 6 pp. 38-40. 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第13回 Unit 6 pp. 40-43 英文を読んで、内容を把握する。英語で問われた質問に対して、答える。</p> <p>第14回 Unit 6 小テスト</p> <p>第15回 「赤毛同盟」の映像資料を鑑賞 英国で制作されたTVドラマ『シャーロック・ホームズの冒険』から「赤毛同盟」を鑑賞する。テキストとの相違点に注目してほしい。</p>
授業概要	サー・コナン・ドイルの19世紀末の探偵小説『シャーロック・ホームズの冒険』の中から「赤毛同盟」を大学生向けに書きかえたテキストを読んでいきます。テキストは、英語を読んで、ストーリーを把握し、その内容に対するクイズに答える—という構成になっています。リスニング素材も充実しています。読む、聞く、書くの3点を勉強していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回の予習箇所を指定します。必ず予習して来ること。英文本文のわからない単語があれば調べ、日本語にできるようにして来ること。
テキスト	上村淳子他著 『Mystery Tour with Sherlock Holmes』 『シャーロック・ホームズと巡るミステリーの旅』 センテージ・ラーニング 2009年 1,850円＋税
受講生へのメッ	英語で書かれた小説の楽しみを味わってください。

セージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	一つのユニットが終わるごとに小テストを行います (20点満点)。その結果で評価を行います。必ず受験してください。 全授業回数の3分の2以上欠席した場合、単位の認定は行いません。
参考文献	『シャーロック・ホームズの冒険』は、光文社文庫、角川文庫などから翻訳が出ています。
備考	

講義科目名称：英語五（60350）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 平易な英語で書かれた小説を読むことによって、基礎的な語彙力と文法力を身につけ、読解力の基礎を涵養する。 2. 小説の背景にある日本文化と英語圏の文化の違いを学ぶ。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 英文読解の基礎①—一品詞</p> <p>第3回 英文読解の基礎②—5文型</p> <p>第4回 A Family Supper を読む：準動詞を捉える</p> <p>第5回 A Family Supper を読む：文型を捉える</p> <p>第6回 A Family Supper を読む：関係代名詞を捉える</p> <p>第7回 A Family Supper を読む：分詞の見極め方</p> <p>第8回 A Family Supper を読む：まとめと小テスト</p> <p>第9回 A Family Supperを読む：同格、言い換え</p> <p>第10回 A Family Supper を読む：動名詞を捉える</p> <p>第11回 A Family Supper を読む：不定詞を捉える</p> <p>第12回 A Family Supper を読む：分詞構文を捉える</p> <p>第13回 A Family Supper を読む：強調構文を捉える</p> <p>第14回 A Family Supper を読む：テキストの解釈について</p> <p>第15回 授業のまとめ：小テスト</p>
授業概要	イギリスの作家カズオ・イングロ (Kazuo Ishiguro, 1954) の短編小説 'A Family Supper' を、基本的な語彙と文法に留意し、一文ずつ訳読しながら読み進めます。読解に必要な文法事項は適宜詳しく解説します。また、小説の読解を通じて、英語圏の文化と日本文化の違いについても解説します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回指定された箇所について、辞書を丁寧に引いて予習すること。 ・ 授業で解説した文法事項について、辞書や文法書を活用して復習すること。
テキスト	初回の授業で配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「英語五」に参加してください。 ・ 基本的な文法事項も詳しく解説し、できるだけ丁寧に読み進めたいと思います。 ・ 辞書を必ず用意し、毎回十分な予習を行って授業に臨んでください。
評価方法	授業時間を実施する小テスト（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	適宜紹介します。
備考	

講義科目名称：英語六（60360）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な分野の情報について読みとったり聞き取ったりし、目的に応じてその情報や考えを理解することができ、更には複数の領域を統合した言語活動が行えるようになること、CEFR-B2以上を目標にする。更にはTOEICやTOEFLで高得点をとる方法を伝授する。異文化間コミュニケーション能力を育成する。
授業計画	<p>第1回 『異文化コミ』事例1; TOEIC (Test 1, 以下同様) Part 1解説</p> <p>第2回 『異文化コミ』事例2; TOEIC Part 2解説</p> <p>第3回 『異文化コミ』事例3; TOEIC Part 3解説と確認小テスト</p> <p>第4回 『異文化コミ』事例4; TOEIC Part 3解説</p> <p>第5回 『異文化コミ』事例5; TOEIC Part 4解説と確認小テスト</p> <p>第6回 『異文化コミ』事例6; TOEIC Part 4解説</p> <p>第7回 『異文化コミ』事例7; TOEIC Part 4解説</p> <p>第8回 『異文化コミ』事例8; TOEIC Part 5解説と確認小テスト</p> <p>第9回 『異文化コミ』事例9; TOEIC Part 5解説</p> <p>第10回 『異文化コミ』事例10; TOEIC Part 6解説</p> <p>第11回 『異文化コミ』事例11; TOEIC Part 7解説と確認小テスト</p> <p>第12回 『異文化コミ』事例12; TOEIC Part 7解説</p> <p>第13回 『異文化コミ』事例13; TOEIC Part 7解説</p> <p>第14回 『異文化コミ』事例14; TOEIC Part 7解説と確認小テスト</p> <p>第15回 『異文化コミ』事例15 ; TOEIC復習テスト</p>
授業概要	TOEICの聞き取り問題と読解問題を毎回15問程度ずつ練習しながらTOEICの特徴を説明し高得点の為の練習方法を紹介する。各回の初めに社会言語学に基づいた異文化間コミュニケーション事例分析をする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回分の問題の答えを予習し、更に音読練習まで終わらせてから授業に臨んでほしい。
テキスト	『公式TOEIC Listening & Reading 問題集vol.6』（国際ビジネスコミュニケーション協会2019）；阿部隆夫、他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』（開拓者2020年）[または、廉価版：タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社、2011）]
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習が重視され、理解できなかった箇所に関しては次回に適時説明がされる。
評価方法	平常の音読練習課題15%，提出課題25%，定期試験60%
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語七（60370）

授業コード：

英文科目名称：一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	高校までに学ぶ基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読むことができるようになること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	品詞	
	第3回	時制・進行形	
	第4回	基本5文型	
	第5回	現在完了	
	第6回	過去完了・未来完了	
	第7回	法助動詞	
	第8回	仮定法	
	第9回	関係節	
	第10回	関係副詞	
	第11回	分詞構文	
	第12回	冠詞	
	第13回	不定詞	
	第14回	受け身形	
	第15回	使役形	
授業概要	担当教員がテキストに沿って文法項目の解説をした後で、受講生は練習問題に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次回学習するテキストの範囲の解説をよく読み、練習問題も解いてみる。復習として、わからなかった文法事項をよく覚えること。		
テキスト	藤田直也（著）『クラスで読む英文法 ーリメディアル学習対応ー』朝日出版社 1,980円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ丁寧に解説していくが、分からない点があれば遠慮なく質問してほしい。また、予習と復習をしっかりとやってほしい。TOEICや英検などの検定試験や編入学試験を受験する人は、英文法をしっかり勉強することをお勧めする。		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

講義科目名称：英語八（60380）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語の読解能力養成を目指します。新時代の都市伝説、自己暗示の科学、フォロワーの数と孤独など最新の話題についての英文を読みます。やさしく読め、同じ内容の形を変えた英文に何度も触れることで、学習事項が定着しやすい構成になっています。速読の力がつきます。各章末には読んだ内容を人に伝えるためのタスクがあります。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 Truths and Falsehoods About Colds</p> <p>第3回 Unit 1 Truths and Falsehoods About Colds</p> <p>第4回 Unit 3 Does Having More Money Makes You Less Kind?</p> <p>第5回 Unit 3 Does Having More Money Makes You Less Kind?</p> <p>第6回 Unit 4 3,000 Friends and All Alone: The Loneliness of Social Media</p> <p>第7回 Unit 4 3,000 Friends and All Alone: The Loneliness of Social Media</p> <p>第8回 Unit 6 “Fake It Till You Make It” : The New Psychology of Body Language</p> <p>第9回 Unit 6 “Fake It Till You Make It” : The New Psychology of Body Language</p> <p>第10回 Unit 9 Online Privacy and Identity Theft</p> <p>第11回 Unit 9 Online Privacy and Identity Theft</p> <p>第12回 Unit 10 Robot Suit HAL</p> <p>第13回 Unit 10 Robot Suit HAL</p> <p>第14回 習熟度の確認</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	教科書の問題に一通り取り組む予定です。READINGは一段落程度ずつ担当を決め、速読練習後に和訳を発表してもらい、精読を行います。和訳担当者は、英文を音読した後、和訳をします（クラス全体に聞こえるように気を付けましょう。）和訳担当者は予め和訳を紙に書いてきましょう。（和訳のスキルは速読のスキルとは異なります。日本語として自然な訳を心がけましょう。）
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	Reading Cycle循環型で学ぶリーディング演習 金星堂（2016）1,900円（税別） ISBN978-4-7647-4024-2 卯城祐司、名畑目真吾、長谷川佑介、木村雪乃、濱田彰、Peter Serafin、Xanthe Smith Serafin 著
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業参加も評価の対象となるので、やむを得ない事情（通院、忌引き、部活動など）で欠席する/した場合は連絡をしましょう。遅刻した場合、出席確認しそこなう場合があるので、授業後に一言断るようによみましょう。連絡がなければサボり扱いとなります。
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。グループワークへの参加、提出物も評価の対象とします。期末試験60%、授業参加（小テスト、提出物など）40%
参考文献	音読MAX（2012）南雲堂 1,400円＋税 黒川裕一著 ISBN978-4-523-26512-2
備考	

講義科目名称：英語九（60390）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本授業は、現代イギリスについて比較的平易な英語で書かれた文章の読解を通して、英文を正確に読むために必要な語彙力と読解力の獲得を目標とします。 具体的な到達目標は次の通り。 ①授業で扱う語彙の意味を言うことができる。 ②授業で扱う英文を正確に読むことができる。
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 Chapter 13 Regions of Britain</p> <p>第3回 Chapter 1 Multi-Cultural UK</p> <p>第4回 Chapter 15 Class & Money</p> <p>第5回 Chapter 5 Eating in Britain</p> <p>第6回 Chapter 7 Music & Fashion</p> <p>第7回 Chapter 2 English Gardens</p> <p>第8回 Chapter 9 Post Brexit Britain</p> <p>第9回 Chapter 4 Education in the UK</p> <p>第10回 Chapter 6 Health & the Medical System</p> <p>第11回 Chapter 3 The British Royal Family</p> <p>第12回 Chapter 11 The British Empire</p> <p>第13回 Chapter 8 Tourism</p> <p>第14回 Chapter 10 Leisure & Sport in the UK</p> <p>第15回 Chapter 12 Media in the UK</p>
授業概要	授業計画に沿って、教科書を進めていきます。各chapterでは、英文を読み、問題に答えていきます。英文を読む際は、皆さんに訳読してもらいます。授業ごとに、前回授業の内容について小テストを行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	必ず予習をしたうえで授業に臨みましょう。英文を精読し、分からない語彙表現は調べ、和訳できるようにしておくとともに、問題に取り組むこと。また、授業後は復習をして知識の定着を図ることが大切です。
テキスト	James C. House、三好道子 『Modern Britain: Culture, Society and History - 現代英国の文化・社会・歴史』 松柏社（¥2200） ISBN:978-4-88198-767-4 C3082
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	イギリスの文化や社会、歴史についての理解を深めながら英語力を伸ばしましょう。
評価方法	小テスト（20%）、授業中の和訳（40%）、期末試験（40%）
参考文献	
備考	授業には必ず辞書を持参してください。

講義科目名称：英会話A（日・社）（60400）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A goof attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話B（国）（60410）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話C (60420)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Describing `People	
	第3回	Family	
	第4回	Comparison with Adjectives	
	第5回	Numbers	
	第6回	Shopping	
	第7回	Time	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Music	
	第10回	Fast Food	
	第11回	American Money	
	第12回	Health	
	第13回	Hobbies and Free Time	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Don' t be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話D (60430)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Describing `People	
	第3回	Family	
	第4回	Comparison with Adjectives	
	第5回	Numbers	
	第6回	Shopping	
	第7回	Time	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Music	
	第10回	Fast Food	
	第11回	American Money	
	第12回	Health	
	第13回	Hobbies and Free Time	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Don' t be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：異文化理解実習（60451）

授業コード：

英文科目名称：一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
英語英文学科専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 英語圏における語学学校での研修を通して、現地の人々と英語で交流し、英語コミュニケーション能力と英語表現能力を向上させること</p> <p>(2) 課外活動やホームステイ等の異文化体験を通し多様性の理解と適応能力を養うこと</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス：異文化理解実習の目的と概要説明、渡航に必要な事務手続の連絡	
	第2回	外国語コミュニケーション：英語コミュニケーションの基本について学ぶ	
	第3回	英語表現：生活に必要な具体的な英語表現について学ぶ	
	第4回	異文化理解（1）：多様性の理解について	
	第5回	異文化理解（2）：異文化適応について	
	第6回	実習：第1日 語学学校でのオリエンテーションとクラス分けなど ・移動日を含めて10日程度：学校で1日8時間（5日40時間）、異文化体験（休日分10時間） ・実習前日までに日本から現地まで移動	
	第7回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第8回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第9回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第10回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第11回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第12回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第13回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第14回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第15回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・英語圏（英語が母語あるいは日常のコミュニケーションの手段として広く使われている地域）の国での実習を2月に予定しています。英語英文学科の引率教員が渡航前に事前実習を10時間実施し、現地への移動方法、実習内容についても説明します。1回目の事前実習は6月下旬とし、その後原則として毎月1回事前指導を予定しています。日程は実習生と教員の時間割に合わせて調整します。 ・事前実習指導の後、実習国に渡航します。語学学校で授業を受けることによって、英語コミュニケーション練習をします。また、課外活動を通じて、異文化経験を積みみます。 ・期間：（移動日を含めて）10日間程度 ・場所：英語圏の国を予定（決定次第掲示、事前実習でお知らせします） ・学科を問わず事前指導を受講した者は参加可能です。安全、円滑な実習実現のため、最終的に渡航できるのは、やむを得ない理由の場合を除き、毎回の事前指導講座に出席した者とします。 		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	新聞やニュースをチェックして、実習に訪れる地域の取り巻く問題に興味や関心を持つこと。		
テキスト	資料と教材を事前指導および現地校にて適宜配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どの学科の学生も参加できます。		
評価方法	事前指導参加（25%）、現地活動状況（65%）、実習後レポート（10%）		
参考文献			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回	授業ガイダンス/フランスとヨーロッパ/パリ/アルファベとつづり字記号/辞書について	
	第2回	発音とつづり字/1課 Dialogue 聞き取りと発音/数（0～10）	
	第3回	1課 文法：主語人称代名詞と動詞avoir, êtreの直説法現在/名詞	
	第4回	1課 数（11～20）/文法：不定冠詞と定冠詞/形容詞	
	第5回	1課 Dialogue 訳読/練習問題/あいさつ	
	第6回	2課 Dialogue 聞き取りと発音/文法：第1群規則動詞の直説法現在/人称代名詞強勢形	
	第7回	2課 文法：前置詞と定冠詞の縮約/否定文/疑問文 / 数（20～70）	
	第8回	2課 Dialogue訳読/国籍・職業を表す名詞 /練習問題	
	第9回	3課 Dialogue 聞き取りと発音/ 文法：動詞aller, venir, faireの直説法現在	
	第10回	3課 文法：部分冠詞/否定のde/形容詞の特殊な女性形と複数形 / 数（70～201）	
	第11回	3課 曜日の表現/ 3課 Dialogue 訳読/練習問題	
	第12回	3課 フランスの食事/4課Dialogue 聞き取りと発音/文法：第2群規則動詞と動詞dire, vouloir直説法現在	
	第13回	4課 文法：疑問形容詞/所有形容詞/7月14日とヴァカンス	
	第14回	4課 命令法/非人称構文/時間の表現/家族を表わす名詞	
	第15回	4課 Dialogue訳読/練習問題/「よい遅刻」（訪問の作法）	
授業概要	フランス語を初めて学ぶ学生向けの講義です。フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また必要に応じて、視聴覚教材を用い、フランス文化について理解を深めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	仏和辞典で分からない単語の意味を調べ、教科書本文の表現の発音練習をしておきましょう。		
テキスト	クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』、朝日出版社、2500円＋税		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。		
評価方法	出席と受講態度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 5課 Dialogue 聞き取りと発音/文法：動詞pouvoir, prendre, connaitreの直説法現在/指示形容詞</p> <p>第3回 5課 文法：副詞的代名詞（中性代名詞）y/疑問代名詞</p> <p>第4回 5課 文法：疑問副詞/序数の表現/建物の階数</p> <p>第5回 5課 道順の表現/5課 Dialogue 訳読/住所</p> <p>第6回 5課 練習問題/6課 Dialogue 聞き取りと発音/文法：代名動詞</p> <p>第7回 6課 文法：代名動詞/指示代名詞</p> <p>第8回 6課 文法：比較級/最上級</p> <p>第9回 6課 文法：動詞devoir, sortirの直説法現在/1年の12か月の表現/6課 Dialogue 訳読</p> <p>第10回 6課 Dialogue 訳読（続き）/練習問題/四季の表現</p> <p>第11回 7課 Dialogue 聞き取りと発音/文法：直説法複合過去</p> <p>第12回 7課 文法：直説法複合過去/副詞的代名詞（中性代名詞）en</p> <p>第13回 7課 体調表現/ Dialogue 訳読</p> <p>第14回 7課 練習問題/フランスの病院</p> <p>第15回 フランス文化紹介（視聴覚教材を使用）</p>
授業概要	「フランス語一」の履修学生を対象とした講義です。前期に引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また必要に応じて、視聴覚教材を用い、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	仏和辞典で分からない単語の意味を調べ、教科書本文の表現の発音練習をしておきましょう。
テキスト	クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』、朝日出版社、2500円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	出席と受講態度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称：フランス語三（60480）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 前年度の復習</p> <p>第2回 8課 Dialogue 聞き取りと発音/文法：目的語人称代名詞</p> <p>第3回 8課 文法：目的語人称代名詞/受動態</p> <p>第4回 8課 文法：受動態/関係代名詞qui, que</p> <p>第5回 8課 文法：強調構文/ジェロンディフ</p> <p>第6回 8課 文法：時の表現(1) / Dialogue訳読</p> <p>第7回 8課 Dialogue訳読/練習問題</p> <p>第8回 9課 Dialogue聞き取りと発音/文法：直説法半過去</p> <p>第9回 9課 文法：直説法半過去/過去時制の使い分け</p> <p>第10回 9課 文法：直説法大過去 /中性代名詞le</p> <p>第11回 9課 Dialogue訳読</p> <p>第12回 9課 練習問題/祝祭日</p> <p>第13回 10課 Dialogue聞き取りと発音/文法：直説法単純未来</p> <p>第14回 10課 文法：直説法単純未来</p> <p>第15回 フランス文化紹介（視聴覚教材を使用）</p>
授業概要	前年度「フランス語一」及び「フランス語二」の履修学生を対象とした講義です。引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また必要に応じて、視聴覚教材を用い、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	仏和辞典で分からない単語の意味を調べ、教科書本文の表現の発音練習をしておきましょう。
テキスト	クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』、朝日出版社、2500円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	出席と受講態度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称：フランス語四（60490）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 10課 文法：直説法単純未来（復習）/直説法前未来</p> <p>第3回 10課 文法：時の表現(2)/Dialogue訳読</p> <p>第4回 10課 Dialogue訳読/練習問題・フランスの鉄道</p> <p>第5回 11課 Dialogue聞き取りと発音/文法：動詞の「法」について/条件法現在</p> <p>第6回 11課 文法：条件法現在</p> <p>第7回 11課 文法：条件法過去</p> <p>第8回 11課 文法：関係代名詞ou, dont/11課 Dialogue訳読</p> <p>第9回 11課 Dialogue訳読/練習問題</p> <p>第10回 11課 移動遊園地/12課 Dialogue聞き取りと発音/文法：接続法現在</p> <p>第11回 12課 文法：接続法現在/12課 Dialogue訳読</p> <p>第12回 12課 Dialogue訳読/練習問題</p> <p>第13回 補遺 直説法単純過去/フランス語の動詞の時制の構造</p> <p>第14回 12課 手紙の書き方</p> <p>第15回 フランス文化紹介（視聴覚教材を使用）</p>
授業概要	「フランス語三」の履修学生が対象の講義です。前期に引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また必要に応じて、視聴覚教材を用い、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	仏和辞典で分からない単語の意味を調べ、教科書本文の表現の発音練習をしておきましょう。
テキスト	クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』、朝日出版社、2500円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	出席と受講態度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基礎（発音と基本例文）を修得する。まず、中国語の正確な発音を身につけた後、挨拶や文法の初歩について学ぶ。毎回、必ず発音トレーニングを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	声調と単母音 声調と単母音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第3回	鼻母音と二重母音・三重母音 鼻母音と複母音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第4回	子音 子音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第5回	巻舌音と軽声 巻舌音と軽声について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第6回	挨拶 中国語の挨拶について学び、例文を正確に発音できるように練習する。	
	第7回	別れの挨拶 別れの挨拶について学び、例文を正確に発音できるように練習する。	
	第8回	感謝とお詫び 感謝とお詫びの表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第9回	返事と呼び掛け 返事と呼び掛けの表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第10回	買い物 買い物の表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第11回	初対面の会話、是の用法 初対面の会話や是の用法について学び、例文の発音練習をする。	
	第12回	疑問詞、的の用法 疑問詞や「的」の用法について学び、例文の発音練習をする。	
	第13回	数字 数字に関する表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第14回	時間と日付 時間と日付の表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第15回	まとめ これまでの学習内容が修得できているか、確認する。	
授業概要	中国語の発音、ローマ字表記システムであるピンイン、および挨拶など簡単な日常会話を学び、中国語の基礎の習得を目指す。また、中国の文化・社会についても随時紹介していく。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 基礎マスター』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の学習で重要なのは声を出すこと。授業では、恥ずかしがらずに大きな声を出しましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験で評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
李 通江			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>簡単なあいさつの言葉を使うことができるような基礎的運用能力を身につけることを目的とします。</p> <p>この中国語Ⅰを履修した学生は、</p> <p>1) 中国語でいう「普通話」とは何かを説明できる。【知識・理解】</p> <p>2) 中国語でいうピンインとは何かを説明できる。【知識・理解】</p> <p>3) ピンインに対応する音声を発音することができる。【技能】</p> <p>4) 簡単な中国語のあいさつ言葉を適切に使うことができる。【技能】</p>
授業計画	<p>第1回 授業の進め方とガイダンス</p> <p>第2回 発音（声調、母音）</p> <p>第3回 発音（複母音、子音）</p> <p>第4回 発音（子音、鼻母音）</p> <p>第5回 人称代名詞、動詞”是”の文</p> <p>第6回 指示代名詞、疑問詞疑問文</p> <p>第7回 動詞述語文、所有を表す動詞”有”</p> <p>第8回 形容詞述語文、助数詞</p> <p>第9回 時刻と時間量の表現</p> <p>第10回 完了を表す”了”、所在を表す”在”</p> <p>第11回 連動文</p> <p>第12回 助動詞”想””要”</p> <p>第13回 経験を表す”過”</p> <p>第14回 存在を表す”有”</p> <p>第15回 復習とまとめ *進み具合によって多少の変更があります。</p>
授業概要	本授業は、教科書に提示された単語や文型、文法及び本文を説明し、重点的に応用練習を行い、中国の流行や最新事情などを随時に紹介する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	1 テキストの単語、文法をしっかりと覚える。2 テキストに付随するCDを活用する。3 目標を立ててモチベーションを維持する。例えば、中国旅行、中国の留学生と話すなど。
テキスト	テキスト：竹島毅、趙キン著『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読』白水社、2500円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>語学の勉強は繰り返しと積み重ねが大切です。</p> <p>1 予習、復習は必ず行う。2 わからないところがあれば積極的に質問する。3 声を出して会話文、読解文を読む練習を行う。</p> <p>以下を満たしていることを合格の基準とする。</p> <p>1 中国語文法の基礎を身につけている。2 初級程度の中国語会話ができる。</p> <p>3 中国語を使って簡単な交流できる。</p>
評価方法	授業への参加度20点+授業中での練習30点+テスト50点 合計100点
参考文献	参考書、辞書：授業中に何種類か紹介するので、必要な人はそれを参考にすること。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基本文法を修得する。「中国語一」での内容をふまえ、より高度な文法事項を学ぶ。毎回、必ず発音トレーニングを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	是の用法「AはBです」 是の用法（「AはBです」）について学び、例文を暗記する。	
	第3回	指示語「これ・あれ・どれ」 指示語「これ・あれ・どれ」について学び、例文を暗記する。	
	第4回	形容詞述語文・形容詞 形容詞述語文と形容詞の用法について学び、例文を暗記する。	
	第5回	否定文「AはBではない」 否定文（「AはBではない」）について学び、例文を暗記する。	
	第6回	諾否疑問文 終助詞を使った諾否疑問文について学び、例文を暗記する。	
	第7回	反復疑問文 反復疑問文（「する？しない？」）について学び、例文を暗記する。	
	第8回	選択疑問文 選択疑問文（「AそれともB？」）について学び、例文を暗記する。	
	第9回	有と在の用法「AはBにいます」 有と在の用法（存在文）について学び、例文を暗記する。	
	第10回	疑問詞「何」「何の」 疑問詞（「何」「何の」）について学び、例文を暗記する。	
	第11回	疑問詞「誰」「どれ」「どこ」 疑問詞（「誰」「どれ」「どこ」）について学び、例文を暗記する。	
	第12回	疑問詞「なぜ」「どのように」 疑問詞（「なぜ」「どのように」）について学び、例文を暗記する。	
	第13回	副詞・前置詞 副詞・前置詞について学び、例文を暗記する。	
	第14回	助動詞（「可以」「要」「想」） 助動詞（「可以」「要」「想」）について学び、例文を暗記する。	
	第15回	まとめ これまでの学習内容が習得できているか、確認する。	
授業概要	肯定文・否定文・疑問文・形容詞・副詞・前置詞・助動詞など、中国語の基本的な文法事項について講義する。毎回提示する重要構文を正確に理解し、使用できるように指導する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 基礎マスター』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は暗記が必要。復習をして次の授業の準備をする習慣を身につけましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
李 通江			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>前期に履修した中国語Ⅰの学修内容を発展させ、日常的場面での会話を学び、応用的な運用能力を身につけるとともに、話し言葉を基盤とする平易な文章を読み解く能力を身につけることを目的とします。</p> <p>この中国語Ⅱを履修した学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現代の標準的な中国語の文の特徴を指摘できる。【知識・理解】 2) 現代標準中国語の辞書を使用できる。【知識・理解】 3) 現代の中国語による日常的な会話を展開することができる。【技能】 4) 現代の中国語の話し言葉を基礎とする平易な文章を読み、模倣できる。【技能】
授業計画	<p>第1回 授業の進め方とガイダンス</p> <p>第2回 前期の復習、現在進行形、主述述語文</p> <p>第3回 助動詞”会”</p> <p>第4回 様態補語、助動詞”能”</p> <p>第5回 比較の表現</p> <p>第6回 副詞”有点”、持続表現</p> <p>第7回 名詞述語文、変化を表す”了”</p> <p>第8回 2つの目的語を取る動詞</p> <p>第9回 結果補語</p> <p>第10回 近い未来を表す表現</p> <p>第11回 方向補語</p> <p>第12回 使役表現</p> <p>第13回 可能補語</p> <p>第14回 受け身</p> <p>第15回 復習とまとめ *進み具合によって多少の変更があります。</p>
授業概要	上記の目標を達成するため、中国語Ⅰで使用したテキストを継続して使用しつつ、前期と同様の運営を行います。また、映像資料によりながら、実際に中国語が使われている情景を観察してみます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	中国語Ⅰと同様、教材に添付された音声資料をあらかじめよく聞いておき、音声を確認します。辞書を活用して会話の内容がきちんと把握できるかどうか点検します。疑問点があればメモをし、随時教員に質問しながら受講して下さい。また確認のためのドリルは、授業中の指示に従って、自主的に継続して取り組みましょう。授業で聞いた説明で、教材に疑問の箇所が残っていないかどうかを確かめます。それから、何度も声に出して読み、できる限り記憶して下さい。
テキスト	テキスト：竹島毅、趙キン著『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読』白水社、2500円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語Ⅱの学習では、辞書の助けが必須になります。辞書を活用する習慣を身につけましょう。以下を満たしていることを合格の基準とする。 現代標準中国語の日常的な表現を、場面に応じて口頭で使うことができるとともに、平易な読み物を辞書の助けを借りながら読みこなす能力を身につけていることを合格の基準とします。
評価方法	授業への参加度20点+授業中での練習30点+テスト50点 合計100点
参考文献	参考書、辞書：授業中に何種類か紹介するので、必要な人はそれを参考にすること。
備考	

講義科目名称：中国語三（60520）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」・「中国語二」で学んだ内容をふまえ、具体的な会話文を素材に、実践的な中国語の修得を目指す。毎回、必ず発音トレーニングを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	代名詞と肯定・否定文 代名詞と肯定・否定文について学び、例文を暗記する。	
	第3回	日時と金額 日時と金額に関する表現について学び、例文を暗記する。	
	第4回	有と在 「有」と「在」の表現について学び、例文を暗記する。	
	第5回	疑問文 諸否疑問文・疑問詞疑問文について学び、例文を暗記する。	
	第6回	出会いの表現 「出会い」の表現について学び、例文を暗記する	
	第7回	時と語順 時を表す表現と語順について学び、例文を暗記する。	
	第8回	様々な疑問詞 様々な疑問詞について学び、例文を暗記する。	
	第9回	時間量 時間の長さに関する表現について学び、例文を暗記する。	
	第10回	仮定・譲歩の表現 仮定・譲歩の表現について学び、例文を暗記する。	
	第11回	出自の表現 出自に関する表現について学び、例文を暗記する。	
	第12回	前置詞の表現 前置詞を用いた表現について学び、例文を暗記する。	
	第13回	「的」の用法 「的」の様々な用法について学び、例文を暗記する。	
	第14回	チェックイン チェックインの会話文について学び、自分でできるようになる。	
	第15回	まとめ これまでの学習内容が修得できているか、確認する。	
授業概要	実践的な中国語について講義する。テキストの本文について正確に理解した上で、それを活用して自分の考えを中国語で表現できるように指導する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 会話レッスン』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語は初級からのレベルアップが難しい言語です。基礎事項を確認しつつ、応用力を鍛えましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験で評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：中国語四（60530）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一・二・三」で学んだ内容をふまえ、さらに実践的な中国語の習得を目指す。毎回必ず発音トレーニングを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	相手の意向を尋ねる 相手の意向を尋ねる表現について学び、例文を暗記する。	
	第3回	宴席での会話 宴席での会話表現について学び、例文を暗記する。	
	第4回	完了を表す 完了のアスペクトについて学び、例文を暗記する。	
	第5回	変化を表す 変化を表す終助詞について学び、例文を暗記する。	
	第6回	お店での会話 お店での会話表現について学び、例文を暗記する。	
	第7回	進行を表す 進行の副詞について学び、例文を暗記する。	
	第8回	状態を表す 状態のアスペクトについて学び、例文を暗記する。	
	第9回	料理についての会話 料理についての会話表現について学び、例文を暗記する。	
	第10回	経験を表す 経験のアスペクトについて学び、例文を暗記する。	
	第11回	動詞の重ね型 動詞の重ね型について学び、例文を暗記する。	
	第12回	「少し」を表す 「少し」の表現について学び、例文を暗記する。	
	第13回	ビジネス会話 ビジネスでの会話表現について学び、例文を暗記する。	
	第14回	自己紹介 中国語で自己紹介する文章を作成し、正確に暗記する。	
	第15回	まとめ これまでの学習内容が修得できているか、確認する。	
授業概要	より実践的な中国語について講義する。テキストの本文について正確に理解した上で、それを活用して自分の考えを中国語で表現できるように指導する。最終的に中国語で自己紹介ができるレベルを目指す。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 会話レッスン』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語三までに修得した文法・単語も活かしつつ、様々な場面での会話をシミュレーションして、自分を考えを自由に表現できる力を身につけましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技一（60610）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	個人種目スポーツ（テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ）の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業に関する説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握する	
	第4回	バドミントン、卓球 種目の特性およびルールの理解、基本的技能の習得	
	第5回	バドミントン、卓球 簡易ゲーム、シングルス	
	第6回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦①	
	第7回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦②	
	第8回	ゴルフ、テニス 種目の特性およびルールの理解	
	第9回	ゴルフ、テニス 基本的技能の習得	
	第10回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス①	
	第11回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス②	
	第12回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス①	
	第13回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス②	
	第14回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
	第15回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
授業概要	様々なラケット系種目を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は、個人種目のスポーツを通じて楽しく身体を動かす時間です。それぞれの種目を実際にやることで、身体を動かす楽しさはもちろん、それぞれの種目のおもしろさにもふれることができるでしょう。その中からみなさんが生涯楽しんでいけるスポーツにも出会えるかもしれません。スポーツが好きな人はもちろん、スポーツが苦手な人もまずは一緒にやってみましょう。みなさんのスポーツ熱が高まるような授業にしていきたいと考えています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2021年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

講義科目名称：スポーツ実技二（60620）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	個人種目スポーツ（テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ）の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業に関する説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する	
	第3回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する	
	第4回	バドミントン、卓球 種目の特性およびルールの理解、基本的技能の習得	
	第5回	バドミントン、卓球 簡易ゲーム、シングルス	
	第6回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦①	
	第7回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦②	
	第8回	ゴルフ、テニス 種目の特性およびルールの理解	
	第9回	ゴルフ、テニス 基本的技能の習得	
	第10回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス①	
	第11回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス②	
	第12回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス①	
	第13回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス②	
	第14回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
	第15回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
授業概要	様々なラケット系種目を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は、個人種目のスポーツを通じて楽しく身体を動かす時間です。それぞれの種目を実際にやってみることで、身体を動かす楽しさはもちろん、それぞれの種目のおもしろさにもふれることができるでしょう。その中からみなさんが生涯楽しんでいけるスポーツにも出会えるかもしれません。スポーツが好きな人はもちろん、スポーツが苦手な人もまずは一緒にやってみましょう。みなさんのスポーツ熱が高まるような授業にしていきたいと考えています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2021年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技二と四を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

講義科目名称：スポーツ実技三（60630）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール）を楽しみながら、それぞれの種目の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第4回	バレーボールまたはフットサル 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第5回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第6回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第7回	バレーボールまたはフットサル リーグ戦③	
	第8回	ソフトボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第9回	ソフトボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第10回	ソフトボール リーグ戦②	
	第11回	バスケットボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第12回	バスケットボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	バスケットボール リーグ戦②	
	第14回	まとめ① バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
	第15回	まとめ② バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
授業概要	上記の種目について、1種目につき3時間程度ずつ実技を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間はチームスポーツを対象とした時間です。みなさん1人1人には、例えば、右利きの人左利き人、走るのが速い人遅い人など、それぞれ特徴があります。仲間同士でその特徴を生かし合いながら、チームでスポーツをする楽しさを味わってください。また、ゲーム中の戦術や技術にふれば、これらのスポーツを観るときに新たな楽しみ方が増えます。みなさんがこの時間を楽しみに思い、より意欲的に参加できるような時間にしていきたいと思います。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2021年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

講義科目名称：スポーツ実技四（60640）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール）を楽しみながら、それぞれの種目の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第3回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第4回	バレーボールまたはフットサル 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第5回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第6回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第7回	バレーボールまたはフットサル リーグ戦③	
	第8回	ソフトボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第9回	ソフトボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第10回	ソフトボール リーグ戦②	
	第11回	バスケットボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第12回	バスケットボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	バスケットボール リーグ戦②	
	第14回	まとめ① バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
	第15回	まとめ② バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
授業概要	上記の種目について、1種目につき3時間程度ずつ実技を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間はチームスポーツを対象とした時間です。みなさん1人1人には、例えば、右利きの人左利き人、走るのが速い人遅い人など、それぞれ特徴があります。仲間同士でその特徴を生かし合いながら、チームでスポーツをする楽しさを味わってください。また、ゲーム中の戦術や技術にふれば、これらのスポーツを観るときに新たな楽しみ方が増えます。みなさんがこの時間を楽しみに思い、より意欲的に参加できるような時間にしていきたいと思います。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2021年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技二と四を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

講義科目名称：スポーツ実技五（60650）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	様々なニュースポーツを経験することで、身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツを行うことの楽しさを味わう。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明</p> <p>第2回 屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。</p> <p>第3回 屋外体力測定 自分自身の体力を把握する。</p> <p>第4回 スカイクロス 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得。ゲーム、ラウンド①</p> <p>第5回 スカイクロス ゲーム、ラウンド②</p> <p>第6回 インディアカ 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得。簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第7回 インディアカ リーグ戦②</p> <p>第8回 フリーテニス 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得</p> <p>第9回 フリーテニス 簡易ゲーム、シングルス</p> <p>第10回 フリーテニス ダブルス</p> <p>第11回 ユニホック 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得</p> <p>第12回 ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第13回 ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦②</p> <p>第14回 まとめ① スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。</p> <p>第15回 まとめ② スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。</p>
授業概要	様々なニュースポーツを1種目につき3時間程度ずつ実施していきます。授業回数の後半は、授業で実施した種目の中から、各個人が好きな種目を選択して実施します。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は様々なスポーツ種目を実施します。これまでにやったことのないスポーツも出てくることでしょう。新たな種目に挑戦することのおもしろさや、身体を動かすことの楽しさを味わってください。生涯楽しんでいけるスポーツと出会えるかもしれません。みなさんがより積極的にスポーツを楽しめるような時間になりたいと思っています。
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート
参考文献	
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2021年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で末履修の学生は優先します）。

講義科目名称：スポーツ実技六（60660）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	様々なニュースポーツを経験することで、身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツを行うことの楽しさを味わう。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第3回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第4回	スカイクロス 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得。ゲーム、ラウンド①	
	第5回	スカイクロス ゲーム、ラウンド②	
	第6回	インディアカ 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得。簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第7回	インディアカ リーグ戦②	
	第8回	フリーテニス 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得	
	第9回	フリーテニス 簡易ゲーム、シングルス	
	第10回	フリーテニス ダブルス	
	第11回	ユニホック 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得	
	第12回	ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第14回	まとめ① スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
	第15回	まとめ② スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
授業概要	様々なニュースポーツを1種目につき3時間程度ずつ実施していきます。授業回数の後半は、授業で実施した種目の中から、各個人が好きな種目を選択して実施します。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は様々なスポーツ種目を実施します。これまでにやったことのないスポーツも出てくることでしょう。新たな種目に挑戦することのおもしろさや、身体を動かすことの楽しさを味わってください。生涯楽しんでいけるスポーツと出会えるかもしれません。みなさんがより積極的にスポーツを楽しめるような時間になりたいと思っています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2021年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で末履修の学生は優先します）。		

講義科目名称：スポーツ実技七（60670）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	フィットネストレーニング、ダンス等を通じて楽しく身体を動かしながら自分の体調をチェックしたり体力レベルを維持・増進したりできるような手段を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業計画について	
	第2回	屋内体力測定① 現在の自分自身の体力を把握する	
	第3回	屋外体力測定 現在の自分自身の体力を把握する	
	第4回	ウォーキング、ジョギング ウォーキング、ジョギングの効果や方法、適切なフォームについて	
	第5回	ダンスの基本① 効果や実施方法について	
	第6回	ダンスの基本②	
	第7回	筋力トレーニング① 効果や実施方法について	
	第8回	筋力トレーニング② 効果や実施方法について	
	第9回	運動実践① 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第10回	運動実践② 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第11回	運動実践③ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第12回	運動実践④ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第13回	運動実践⑤ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第14回	運動実践⑥ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第15回	体力測定 運動実践の評価	
授業概要	筋力トレーニング、ジョギング、ダンスなどを組み合わせて進めていきます。最初のオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特に指定しません。ジャージ等の身体を動かせる服装で、グラウンドでの実技の場合には運動用のシューズ、体育館での実技の場合には上履きとは別に体育館用のシューズを必ず準備してください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分自身の体調を管理するための知識や方法について学んでください。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% レポート		
参考文献			
備考	2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2021年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技五と七を同時に履修することはできない）。 履修希望者が多い場合（60名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

講義科目名称：スポーツ実技八（60680）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	フィットネストレーニング、ダンス等を通じて楽しく身体を動かしながら自分の体調をチェックしたり体力レベルを維持・増進したりできるような手段を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業計画について	
	第2回	屋内体力測定① 現在の自分自身の体力を把握する	
	第3回	屋外体力測定 現在の自分自身の体力を把握する	
	第4回	ウォーキング、ジョギング ウォーキング、ジョギングの効果や方法、適切なフォームについて	
	第5回	ダンスの基本① 効果や実施方法について	
	第6回	ダンスの基本②	
	第7回	筋力トレーニング① 効果や実施方法について	
	第8回	筋力トレーニング② 効果や実施方法について	
	第9回	運動実践① 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第10回	運動実践② 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第11回	運動実践③ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第12回	運動実践④ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第13回	運動実践⑤ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第14回	運動実践⑥ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第15回	体力測定 運動実践の評価	
授業概要	筋力トレーニング、ジョギング、ダンスなどを組み合わせて進めていきます。最初のオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特に指定しません。ジャージ等の身体を動かせる服装で、グラウンドでの実技の場合には運動用のシューズ、体育館での実技の場合には上履きとは別に体育館用のシューズを必ず準備してください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分自身の体調を管理するための知識や方法について学んでください。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% レポート		
参考文献			
備考	2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2021年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技六と八を同時に履修することはできない）。 履修希望者が多い場合（60名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

講義科目名称：スポーツ実技九（60690）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	自然に触れ合いながら身体を動かす楽しみを味わえるようにする。		
授業計画	第1回	事前指導① 山形の自然について	
	第2回	事前指導② アウトドアスポーツの基本	
	第3回	カヌー①	
	第4回	カヌー②	
	第5回	カヌー③	
	第6回	月山登山①	
	第7回	月山登山②	
	第8回	月山登山③	
	第9回	月山登山④	
	第10回	月山登山⑤	
	第11回	月山登山⑥	
	第12回	フィッシング①	
	第13回	フィッシング②	
	第14回	フィッシング③	
	第15回	まとめ	
授業概要	カヌー、トレッキング、登山など自然の中で行うスポーツを楽しむ。事前、事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	必要な物品等はオリエンテーション（7月に予定）で指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然の中で様々な体験をすることで、身体を動かす楽しさや爽快感を味わって欲しいと思います。		
評価方法	参加状況（60%）とレポート（40%）によって総合的に評価する。		
参考文献			
備考	実習費用は25000円前後です。オリエンテーションまでには確定します。		

講義科目名称：スポーツ実技十（60700）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	様々なスノースポーツを経験し、その基本的な技術を習得することで、冬期間に行う運動種目として活用できるようにする。		
授業計画	第1回	事前指導① 山形の自然について	
	第2回	事前指導② アウトドアスポーツの基本	
	第3回	スノーシュートレッキング①	
	第4回	スノーシュートレッキング②	
	第5回	スノーシュートレッキング③	
	第6回	クロスカントリースキー①	
	第7回	クロスカントリースキー②	
	第8回	クロスカントリースキー③	
	第9回	クロスカントリースキー④	
	第10回	雪板①	
	第11回	雪板②	
	第12回	雪板③	
	第13回	スノーモービル①	
	第14回	スノーモービル②	
	第15回	まとめ	
授業概要	冬季野外活動種目であるスノーシュー、スキー、スノーモービル等を体験する。事前、事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	必要な物品等はオリエンテーションで指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	雪山でのスノースポーツを通して、身体を動かす楽しさや爽快感を味わって欲しいと思います。		
評価方法	参加状況（60%）とレポート（40%）によって総合的に評価する。		
参考文献			
備考	実習費用は30000円前後です。オリエンテーションまでにはお知らせします。		

講義科目名称：健康理論（60710）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択・教職選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康管理を行なう上で必要となる知識や健康づくりの関する様々な情報について学習する。 ・自分の健康管理を行う手法を学習する。
授業計画	<p>第1回 健康づくりに関する各種取り組みの紹介</p> <p>第2回 自分自身の日常運動量及び体力について</p> <p>第3回 日頃の健康状態のセルフチェック法</p> <p>第4回 メンタルフィットネス</p> <p>第5回 健康と体力</p> <p>第6回 現代の学生生活と健康</p> <p>第7回 加齢と健康について</p> <p>第8回 まとめ</p>
授業概要	健康のためにどのようなことを実践していますか確認してもらい、健康に生きて行くためには、日常生活でどのような点に注意を置き、どのような生活スタイルを身につけたらよいかについて資料等を通して学習していく。
実務経験及び授業の内容	自治体での健康推進計画(米沢市、長井市)や介護保険運営協議会(米沢市)、認知症施策推進行動計画(山形県)、様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし健康理論の授業を行う。
時間外学習	授業を踏まえて配布した資料等を今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	期末レポート課題：50%、授業への参加度(理由、報告のない欠席、途中入退室等)：50%で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：スポーツ文化論（60720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	競技スポーツ（オリンピックやプロスポーツ）と生涯スポーツ（楽しみや健康のためのスポーツ）の2つの側面から、スポーツ界の現状を知り、スポーツの持つ様々な魅力や問題点に触れることで、スポーツの味方や考え方を深める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	日本におけるスポーツ文化① 部活動	
	第3回	日本におけるスポーツ文化② スポーツクラブ	
	第4回	世界におけるスポーツの歴史	
	第5回	日本におけるスポーツの歴史	
	第6回	古代オリンピック①	
	第7回	古代オリンピック②	
	第8回	近代オリンピック①	
	第9回	近代オリンピック②	
	第10回	日本におけるスポーツ文化③	
	第11回	スポーツとルール	
	第12回	メディアとスポーツ	
	第13回	子どもとスポーツ	
	第14回	健康とスポーツ	
	第15回	まとめ	
授業概要	スポーツに関する様々な内容を取り上げ、講義形式で行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内で配布した資料の復習を行う。		
テキスト	特に指定しません。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	みなさんの身近なところから世界に至るまで、スポーツの様々な側面をみることで、これまで以上に深くスポーツを観ることができると思います。みなさんの意見や考えなども聞きながら、様々な見方や考え方を引き出せるよう工夫していきたいと思っています。		
評価方法	授業への参加度（20%）と授業後の小レポート（80%）で評価します。		
参考文献			
備考			